資料2

パブリックコメント手続の実施について

（1）公表する資料

鹿島駅駅舎利活用施設整備計画（素案）

（2）意見の提出方法

①意見提出の書式は自由です。住所、氏名、電話番号を明記してください。

②提出は窓口へ持参するか郵送またはＦＡＸ、電子メールなどで提出してください。

（3）意見等の提出期限・公表期間

令和８年２月１日（日）～２月２０日（金）

（4）公表場所

南相馬市役所市民課総合案内窓口、鹿島区役所 地域振興課及び市民総合サービス課、小高区役所市民総合サービス課、各生涯学習センター、市民情報交流センター、市ホームページ

（5）提出・問合せ先

〒９７９－２３９２　鹿島区西町一丁目１

鹿島区地域振興課

ＴＥＬ　６７-１０２１　　ＦＡＸ　４６－５６８４

電子メール　k-chiikishinko@city.minamisoma.lg.jp

1．現状と課題

【鹿島区の現状】

・鹿島区市街地では人口減少や少子高齢化が進行し、店舗・事業所も減少しており、高校卒業後は進学や就職などで地域外へ出て行ってしまい、鹿島には戻ってこないことが多いのが現状です。鹿島区の現在の人口構成からも、若い世代の地域外への流出傾向を読み取ることができます。
・本市が2024年に行った市民意識調査では、前回調査(2022年)に比べ「今後も南相馬市で暮らしたい」という意向について鹿島区においては8.7ポイントの減となっており、地域への愛着低下がうかがえます。
・これらの要因として、まちなかにおいて地域の住民等が気軽に集まったり、日常的に出会う場所が減少していることやイベント等の減少、住民同士の交流の減少が考えられます。

【鹿島区の課題】

地域への愛着を醸成する機会をつくることが必要

地域の活力を維持していくためには、定住を促進することが必要です。若い世代の定住には、まず、地域に対する愛着醸成が必要であり、地域住民に、鹿島の「まち」「ひと」「自然」の魅力を知ってもらう多様な機会をつくり、市外に出ても、地域に対する魅力を感じ続けてもらえるよう働きかけることが重要です。また、鹿島区を持続可能な地域とするためには、移住者の誘導も必要です。

【鹿島駅舎の現状】

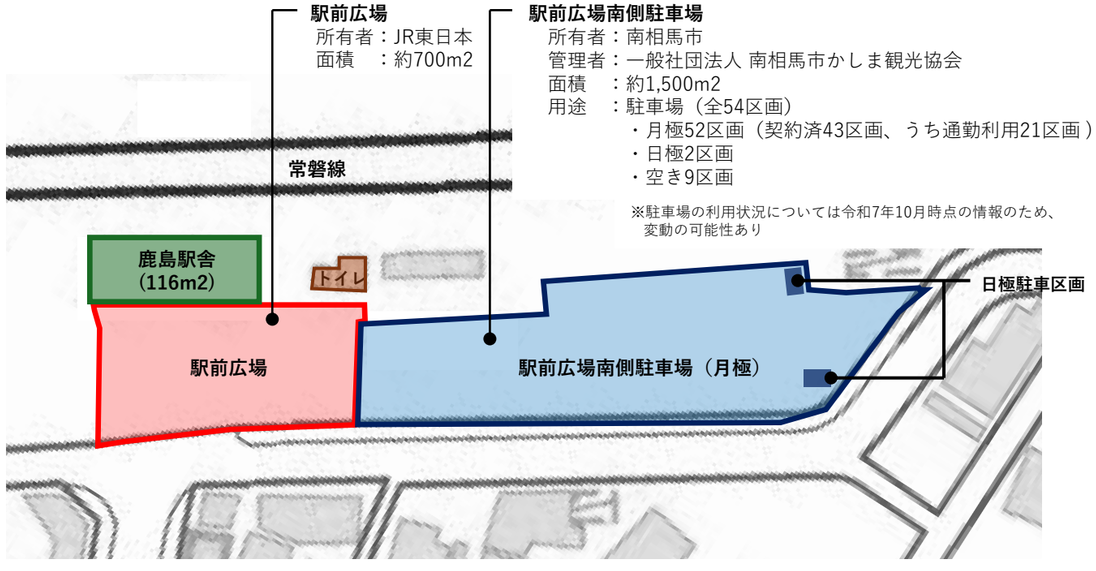
・鹿島駅舎は築127年と福島県内の常磐線の駅舎で最も古く、歴史的な価値を有しています。
・鹿島区内唯一の鉄道駅であり、高校がない鹿島区においては、通学のために大部分の地域住民が毎日利用していた思い入れの強い場所です。これらのことから、JR東日本による駅舎の建替えに対して現駅舎の存続を求める声が上がりました。
・鹿島区には高校が無いことから、地元の高校生の大半が通学のため日常的に利用する場です。
・高校生からは、放課後は学校のある地域で過ごすことが多いとの声が聞かれました。現在は駅員のいない無人駅であることから、不安を覚えるとの声もあります。

【鹿島駅舎の課題】

「通り過ぎる駅舎」から「集える駅舎」への転換

現在の駅舎は鉄道利用者が利用するための施設で、十分な広さがないことから、駅舎利用者が足を止めて集うような滞留の場として機能していません。このため、現駅舎の保存活用にあたっては、現在利用されていないスペースの利活用方法を検討する必要があります。利活用の検討にあたっては、より多くの地域住民が駅舎を利用したくなる仕掛けが必要です。また、駅舎のコアユーザーである高校生の居場所としての検討が必要です。

■鹿島駅及び駅周辺の現状



2．事業目的

鹿島で育まれてきた多様な魅力を通じた交流により、郷土への愛着を醸成する場づくり

鹿島区の課題である「地域への愛着を醸成する機会」をつくるうえで、地域住民に馴染みのある鹿島駅舎を活用することは有用だと考えています。一方で、現在の鹿島駅舎はそういった場とするうえで課題を抱えていることから、本事業では鹿島区及び鹿島駅舎の課題にアプローチした取り組みを行います。

まず、若い世代を中心とした地域住民が地元への愛着を持ちにくい背景には、イベントや交流機会の減少により、地域とのつながりを得る機会が失われていることがあげられます。住民の定着を促進するためには、地域に対する愛着の醸成が不可欠です。そこで、歴史的な価値を有し、多くの住民が深い思い入れを持つ「鹿島駅舎」を、郷土への愛着を育む場として活用します。本事業では、この駅舎において鹿島の「まち」「ひと」「自然」の魅力を再認識できる多様な機会を創出し、それらを通じた交流によって地域への愛着を醸成する場づくりを行います。

鹿島駅舎は地元の高校生の多くが通学のために日常的に利用する場です。地域住民間の交流の場において若い世代の主体的な利用を促すことは大きな課題となりますが、本事業では「高校生が毎日必ず訪れる」という利点を活かします。高校生が日常的に利用する場と地域の人々が活動する場を重ね合わせることにより、特別なイベントとしてではなく自然な形で、多様な世代の地域住民間の接点を創出し、交流を促進します。

鹿島らしさが随所に息づく場となる駅舎は、地域外からの来訪意欲を喚起します。移住検討者を含む地域外からの来訪者（以下、来訪者）が駅舎で展開される地域の活動やそこに集う地域住民との交流を通じて、鹿島をより深く知り、繰り返し訪れ、移住意欲を高めることにつながります。そして、地域住民が郷土への愛着を醸成するうえで、来訪者との交流は重要な役割を担います。地域住民にとって、客観的な視点をもつ来訪者との対話は見慣れた日常を鹿島の魅力として再認識するきっかけとなることから、このような交流を経て鹿島の魅力をより深く知ることにより郷土への愛着を醸成し、定住意欲の向上へとつなげます。

3．事業コンセプト及び施設計画

[事業コンセプト①] 鹿島の魅力を見つめなおす場所とします

鹿島の魅力として、歴史や文化を表現する相馬野馬追などの伝統行事や祭礼行事、豊かな自然である阿武隈山系の山並みや河川、海岸の風景、想いや温かさを感じる生業に関わる手しごとや地域住民による多様な活動などがあげられます。 ただ、地元で暮らしているとそれらは日常の一部となり、改めてその価値に気づくことは少ないものであり、知るきっかけがないと来訪者が関心を寄せることもありません。　地域住民が駅舎を利用することで地元のことを再認識するとともに、来訪者も鹿島の魅力を体感する場とします。



■外観

【特徴①】大きな開口を設け、外から施設内の様子を見えやすくすることで、中の活動の様子を知り関心を抱くきっかけにつなげます。

【特徴②】地域住民に馴染みがあり、歴史的な価値を持つ鹿島駅の雰囲気を継承します。相馬野馬追の紋様をデザインとして取り入れるなど、鹿島の魅力をかたちづくっている歴史や文化を感じられる外観とします。



■内観

【特徴①】鹿島区で行われている活動に由縁のある素材を内装材として用い、鹿島に関わる人々の暮らし、活動が感じられるよう演出します。

【特徴②】相馬支援学校をはじめとした、鹿島のこどもたちが持つ豊かな感性から生まれた作品の展示を積極的に行います。

【特徴③】大きな開口を通して、鹿島の魅力を形づくる山並みや夕陽の風景を再認識できる機会を創出します。

■施設内での取組

鹿島区の魅力である「地域住民による多様な活動」を鹿島駅舎で行い、駅舎を訪れた人の目に触れることをきっかけに活動の広がりに繋げていきます。駅舎内では地域住民の活動の発表やイベントのみならず、発表に至るまでの過程である日常的な作業や練習なども施設内で行うことにより、交流のきっかけとします。　鹿島区を中心に活動している個人・団体へのヒアリング等を実施し、絵てがみ教室、高校生向けキャリアワークショップ、ミニライブの開催等の活動を想定しています。

[事業コンセプト②]鹿島の居場所とします

現在の駅舎の主な利用者層である高校生へのヒアリングを行ったところ、鹿島区内で過ごせる場が極めて限られており、自宅以外に自分の居場所を見出しにくい現状が浮かび上がりました。このため、高校のある小高区や原町区、市外で友人達と過ごす時間が長くなるのが現状です。鹿島区で過ごす時間が増えてこそ鹿島での思い出が増え、地元への愛着を育むことにつながると考え、鹿島における居場所づくりを行います。また、来訪者も駅舎を鹿島における居場所とし、そこで過ごすことにより地域の日常を知ることができる場とします。

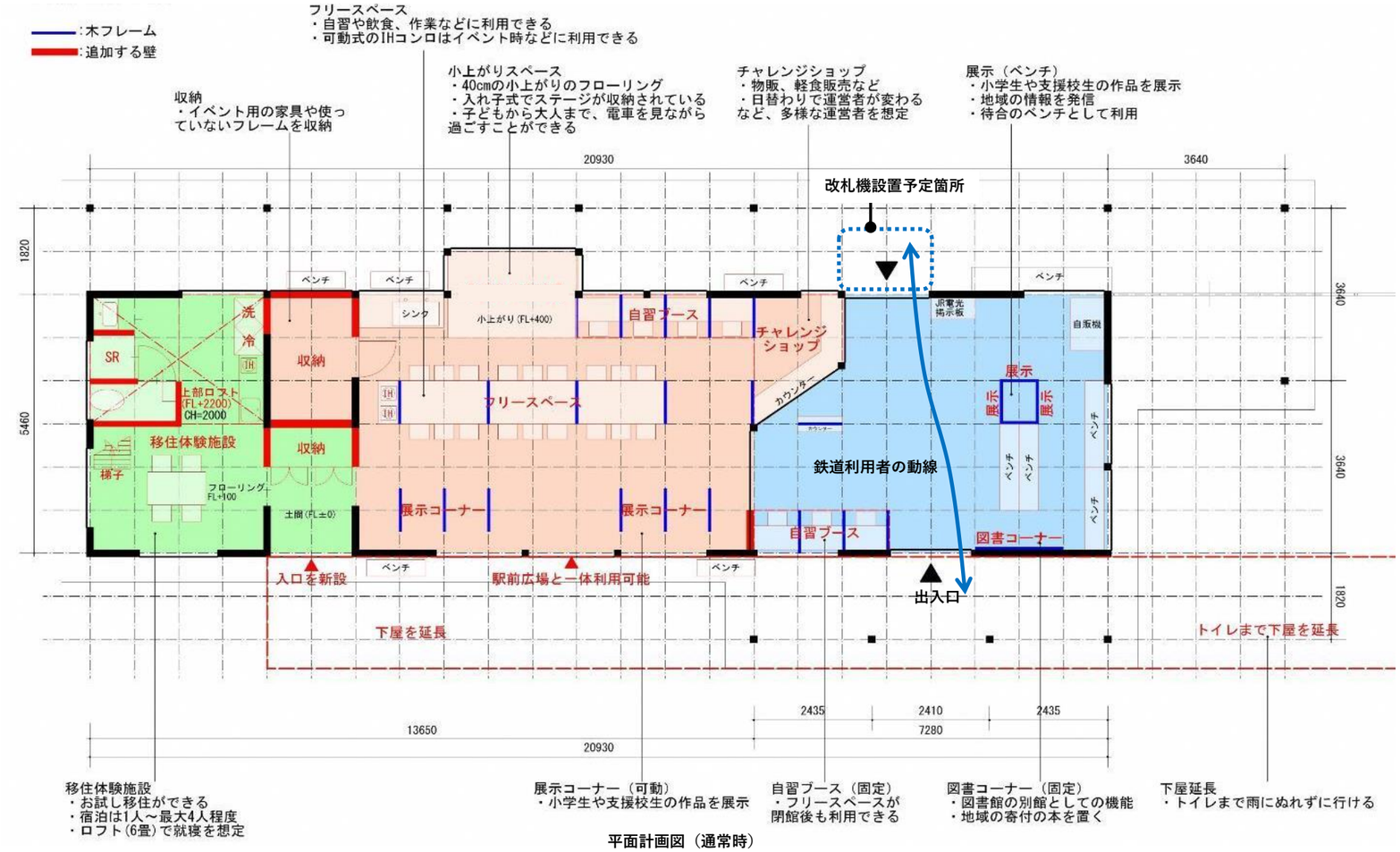
■市民ワークショップでの意見

市民ワークショップ（全３回）及び高校生ワークショップ（全１回）にて駅舎の利用方法について意見出しを行い、意見を分析することで以下の考え方が必要であることが判明しました。これらの内容を平面計画に反映しています。

・高校生や地域住民が居場所として利用できることが重要であることが伺い知れました。居場所としての利用に対しては、談話、休憩、自習、読書等様々なニーズがあったため、可変式の木フレームを使うことで各利用者にとって居心地の良い空間を作れるようにします。

・「外から施設内の様子が見えること」といった施設のハード面での提案や、「イベント等の実施」といったソフト面での提案もワークショップにて多く聞かれました。また、平日は居場所利用が多く、休日はイベント実施がしやすいといった意見から、平日と休日で施設内のレイアウトを変える等、多様な活動に対応した計画とします。

・鉄道利用者の動線を考慮すると、現在、鉄道利用者の待合として利用されているスペースは、改修後も同様の役割が期待され、地域住民の日常的に利用したい機能は交流ゾーン付近に配置する声が集まりました。このため、駅前広場から交流ゾーンに直接来場できることや駅前広場との一体利用を実現するため、出入口を新設します。

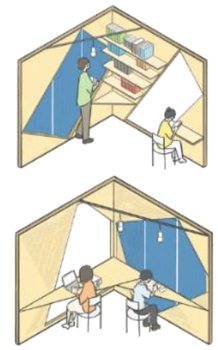


平面計画図（通常時）

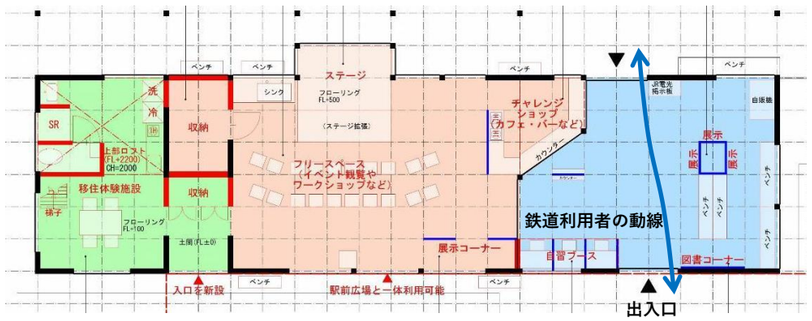
■木フレームの活用

多様な利用者のニーズにあわせた自由な使い方を実現するための手法として、木フレームを活用します。木フレームは地域産材を活用し、住民が染めた布などの素材を利用して彩ります。

木フレームは可変性・可動式であり、温かみのある雰囲気で空間を緩やかに仕切り、利用者に居心地の良い居場所をつくりだします。木フレームを組み合わせることで、様々な居場所をつくることが可能です。



木フレーム活用イメージ



平面計画図（イベント時）

移住体験ゾーン（約24㎡）

- 移住希望者が宿泊可能なゾーンとします。
- ホーム側に窓を設けるなど、駅舎という特別な環境を活かし楽しみながら滞在ができる空間づくりを行います。
- 交流ゾーンの活用を促進し、滞在中は容易に地域住民と交流できるようにします。

交流ゾーン（約56㎡）

- 地域住民の日常的な居場所として、またイベントやサークル活動等の実施など、多様な用途での利活用を可能とします。
- 鉄道利用者の多い時間帯は、待合ゾーンと連携して、待合としての利用も可能にします。
- イベント時には駅前広場とつながり、一体的に利用できるようにします。

待合ゾーン（約36㎡）

- 鉄道利用者の待合のためのゾーンとして、待合機能を充実させます。
- 24時間開放（施錠しない）エリアとします。
- 駅舎利用者に向けて情報発信を行います。
- 展示スペースを充実させ、鹿島の歴史、鹿島区内の取り組みや情報発信を行う場として活用します。

[事業コンセプト③]交流が広がる場所とします

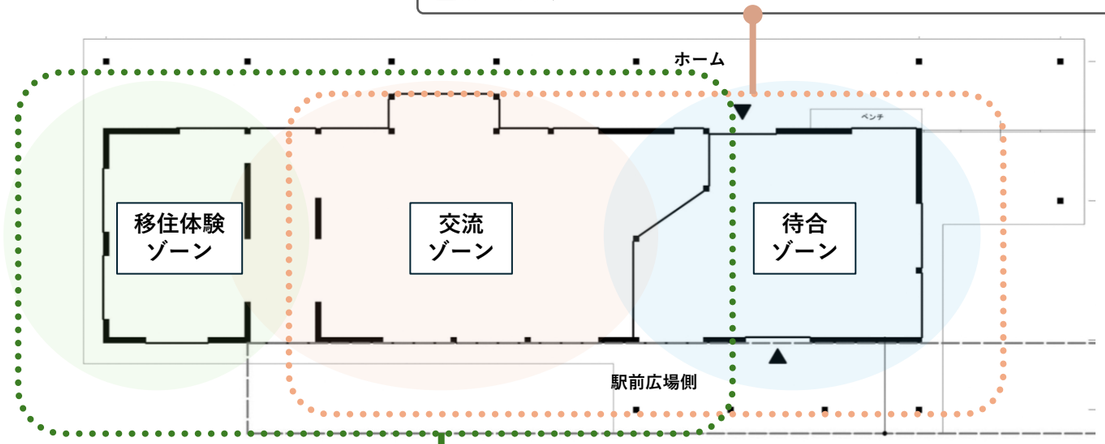
現在鹿島区内では、かしま交流センターや鹿島生涯学習センターがサークル活動や教室等の活動を行う場として活用されています。これらの場所は閉じられた空間のため、他者の目に触れる機会も無く、活動の広がりが期待出来ない状況にあります。今回、駅舎を地域住民が日常的に利用できる場とすることにより、この場で行われる活動に触れ、参加しやすい環境を整えます。また、人の往来が多いという駅舎ならではの特長を活かし、活動を通じた交流の活発化も期待されます。

駅舎内で行われる「事業コンセプト① 鹿島の魅力を見つめなおす」取組は、地域住民と来訪者のコミュニケーションツールとしての役割を果たし、両者の間に自然な交流をもたらします。こうした交流を通じ、地域外からの客観的な視点で鹿島の魅力についての意見を聞くことは、地域住民にとって、自分たちが暮らす地域の価値を再認識し、愛着を持つきっかけとなります。また来訪者にとっては、鹿島のことをより深く知り、関わるきっかけとなります。

■駅舎内の各ゾーンを隣り合わせるねらい

交流ゾーン×待合ゾーン

「高校生を中心とした鉄道利用者が滞留する場」と「市民活動の場」を隣り合わせることで、多世代が日常的に接点を持ち、交流を持つ機会が生まれます。



交流ゾーン×移住体験ゾーン

駅舎のコンセプトである「鹿島の魅力」がコミュニケーションツールとなり、移住検討者は鹿島への関心を高め、地域住民は新たな視点での意見を聞くことで地元の魅力を再認識することにつなげます。

■地域の声

地域で活動する団体や個人を対象に、各々が取り組んでいる活動を行う場所としての活用可能性についてヒアリングを実施しました。代表的な内容は以下のとおりです。

関係者以外の目が届かない空間で活動しており、活動の広がりを感じられない。開かれた場で活動することで、日常的な取組自体が情報発信となり、さらなる活動の活発化が期待できる。

活動の発表だけでなく、日常的な取組（作業など）をこの場で行うことで、地域とのつながりを得ることが期待できる。

開かれた場である駅舎を日常的な取組を行う場として活用し、
地域住民や来訪者の交流を広げることにつなげます。

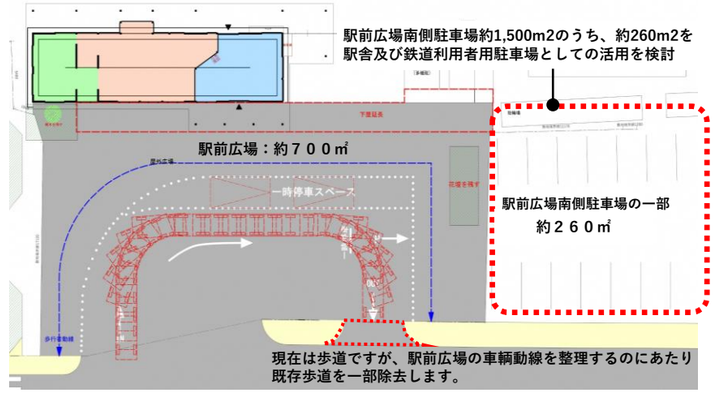
4．駅舎周辺の考え方

駅舎の改修に合わせて、駅前広場や駐車場等も一体的に整備します。駅前広場は、歩行者・自動車の動線を整理し、送迎等の際に安全で使いやすい駅前広場とします。鉄道や施設利用者の駐車場など、駅舎周辺の敷地も含めて必要な機能を確保します。既存トイレは駅舎から庇を連続させるなど、駅舎利用者が利用しやすい動線を確保します。

現在、駅前広場南側の既存駐車場の一部区画を駅舎利用者及び鉄道利用者用の駐車場として活用することを検討しており、管理者であるかしま観光協会と協議を行っています。



駅前広場イメージ



駅前広場配置計画図

5．運営方法

改修後の駅舎を地域に身近な使いやすい施設とし、地域団体や民間事業者のノウハウを生かすことで、運営プログラムを充実させ、収益性を含めて柔軟な運営を目指します。地域の多様なプレイヤーの参画を募り、地域に寄り添った運営を行っていくため、地域おこし協力隊制度の活用や指定管理者制度など、意欲的な管理・運営主体が望まれます。本計画では、以下の２つの方向性を示します。令和８年度以降、関係者等との協議等を行いながら、事業手法を決定します。

運営手法案１　地域おこし協力隊制度の活用（直営）

施設の管理・運営の担い手として地域おこし協力隊を募集します。地域おこし協力隊を中心として施設を運営しながら、指定管理者としての受け皿団体の育成を進め、3年後の移行を目指していきます。

運営手法案２　指定管理者制度の活用

地域団体等が主体となり、指定管理者として管理・運営を行います。今後、鹿島商工会等の地元関係者との協議を行いながら、地域の受け皿の可能性を検討します。なお、指定管理者制度を活用する場合も、担い手と十分な協議等を行い、施設の目的や運営方針を共有し、管理・運営に反映させます。

6．建設費・維持管理費（想定）

①建設費

項目	金額（千円）	備考
調査・設計監理費	29,000	
工事費	146,000	周辺部外構込み
備品購入費	5,500	
合　計	180,500	

※工事費は既存躯体調査の結果や今後の物価上昇の影響により変動の可能性あり。
※財源として、第二世代交付金（内閣府）補助率1/2以内を想定。

②維持管理費

項目	金額（千円）
光熱水費（上下水道料金、電気料金など）	1,450
役務費（清掃作業費、インターネット使用料など）	340
施設管理費（消防用設備点検費、警備保障など）	220
移住体験ゾーン管理費（光熱水費、クリーニング費など）	594
人件費（地域おこし協力隊）	5,618
合　計	8,222

7．事業スケジュール

	R７年度（2025）	R８年度（2026）	R９年度（2027）	R10年度（2028）
主なイベント			●駅舎譲渡に係る協定締結 ●駅舎譲渡契約締結	オープン
南相馬市	整備計画策定	基本・実施設計	改修工事	
JR東日本			支障移転	

※表中の支障移転は、今般の駅舎譲渡と改修にあたり必要とされるSuica改札機をはじめとしたJR東日本が所有する資産の移転作業を行うもの。

鹿島駅駅舎利活用施設整備計画 素案

2026年 - 月 - 日

南相馬市
MINAMISOMA

目次

鹿島駅駅舎利活用施設整備計画 素案

（1）南相馬市及び鹿島区の概要 ・・・・・ 2
（2）関連・上位計画 ・・・・・ 8
（3）鹿島駅及び駅周辺の現状 ・・・・・ 10
（4）駅舎利活用にあたっての課題と事業目的 ・・・・・ 15
（5）コンセプト ・・・・・ 17
（6）施設計画 ・・・・・ 18
（7）施設の活用 ・・・・・ 36
（8）駅周辺の考え方 ・・・・・ 43
（9）まちへの展開 ・・・・・ 44
（10）運営体制 ・・・・・ 45
（11）事業計画 ・・・・・ 47
（12）関係者との検討経過 ・・・・・ 48
（13）今後の検討課題 ・・・・・ 49

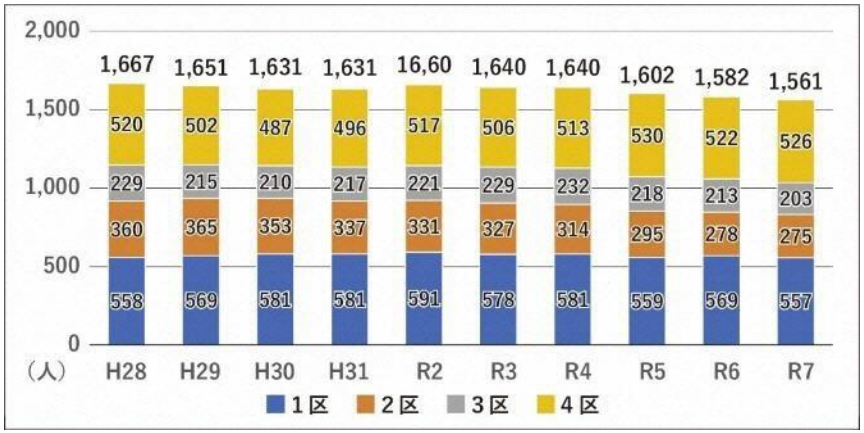
南相馬市 MINAMISOMA

（1）南相馬市及び鹿島区の概要

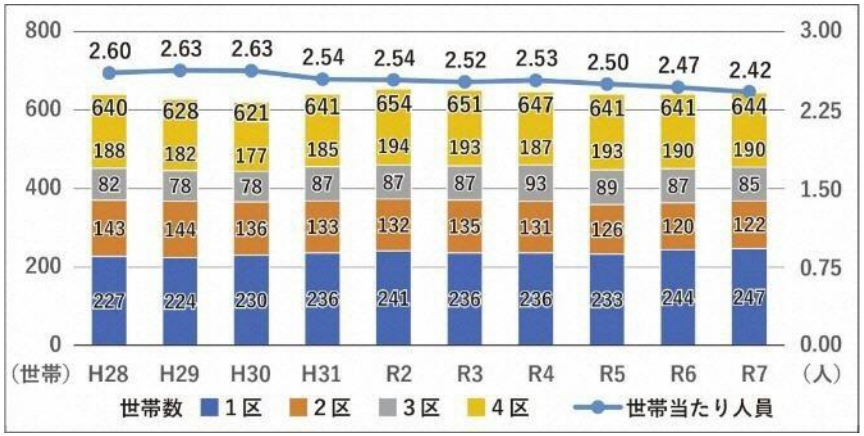
人口

鹿島区市街地の人口はこの10年間、減少傾向にあります。特に鹿島駅の正面に位置する行政区である２区、３区は人口減少の割合が大きくなっています。世帯数は、ほぼ横ばいであり、世帯当たりの人員が減少傾向にあります。





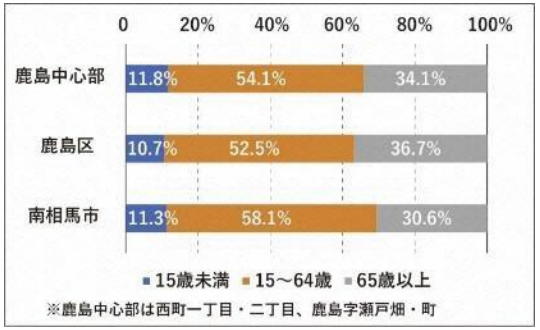
鹿島区1区行政区～4区行政区における人口の推移（住民基本台帳より）



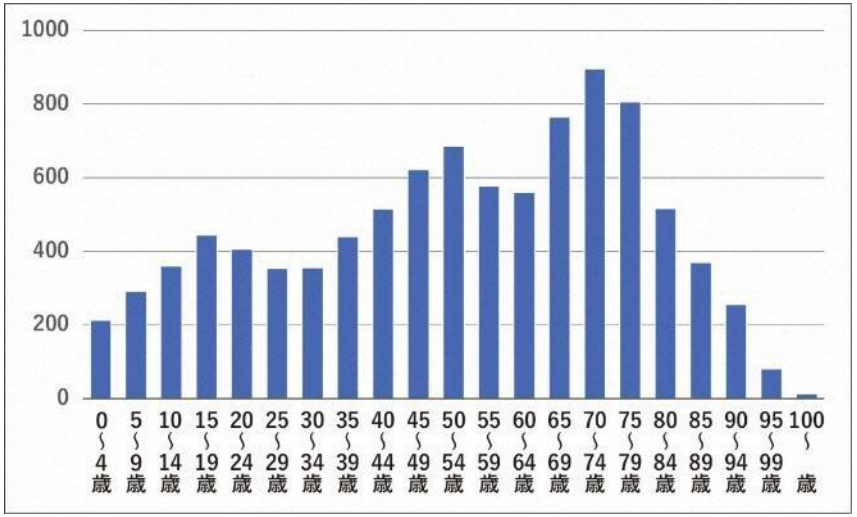
鹿島区1区行政区～4区行政区における世帯数の推移（住民基本台帳より）

年代構成をみると、15歳未満は11.8％、65歳以上は34.1％となっており、少子高齢化が進んでいます。鹿島区は南相馬市全体と比較しても、高齢者の割合は大きくなっています。

また、15～19歳と比較して、20～34歳の人口が少なくなっており、高校卒業後の若い世代の地域外への流出・減少を読み取ることができます。



年齢3区分の割合（R2国勢調査より）



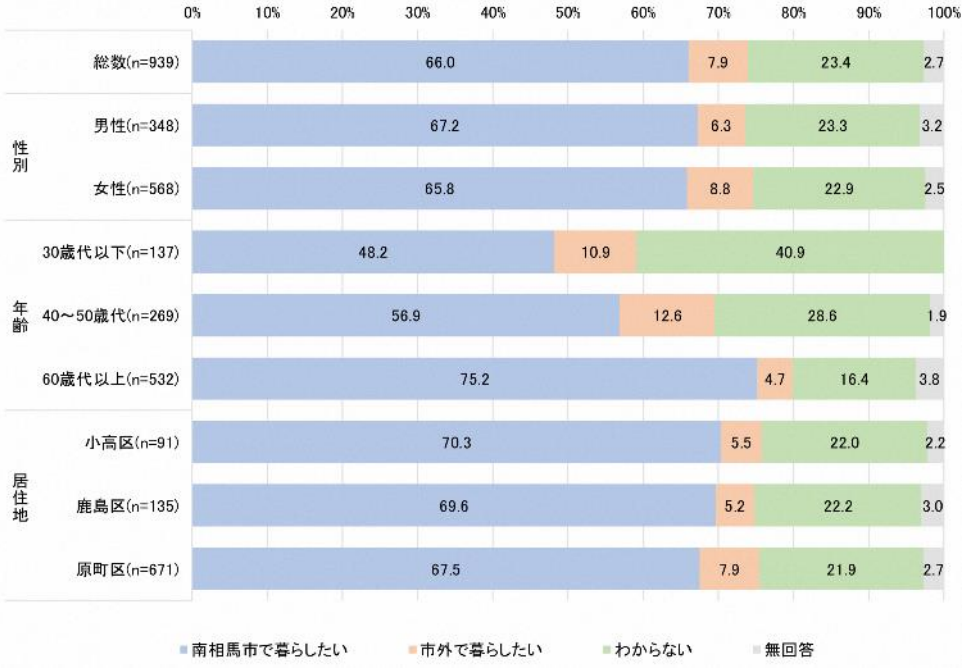
鹿島区の年齢別人口構成（R7住民基本台帳より）

（1）南相馬市及び鹿島区の概要

定住に対する意向

令和6年の市民意識調査では、鹿島区で、今後も「南相馬市で暮らし続けたい」と回答した市民は69.6％となっており、令和4年の同調査の78.3％から8.7ポイント減少しています。

また、市全体を年齢別にみると30歳代以下は48.2％となっており、40歳代以上と比較して低くなっています。

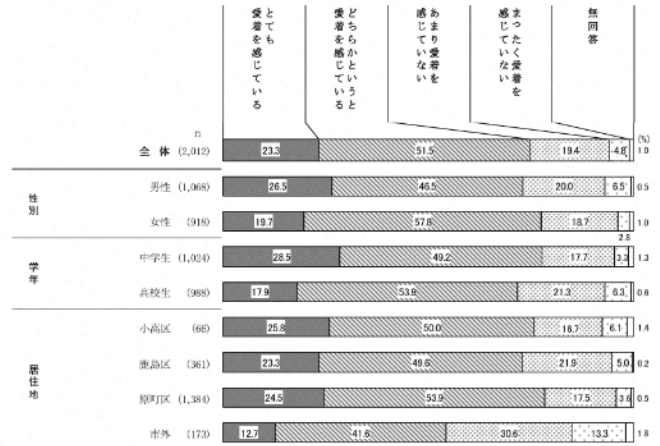


今後の定住意向（南相馬市市民意識調査（令和６年）より）

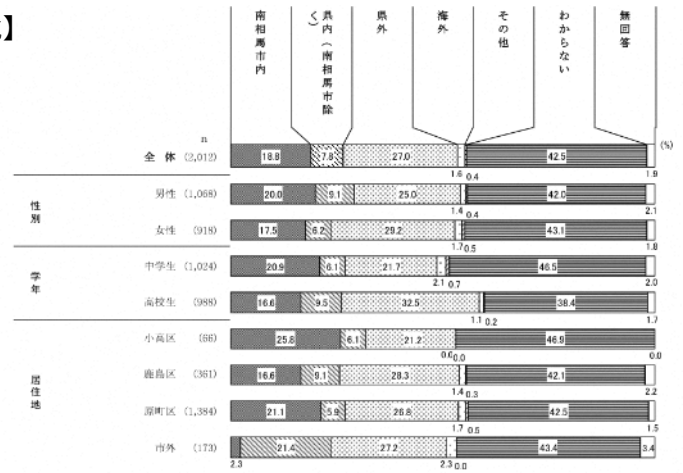
中高生意識調査における南相馬市への愛着について、鹿島区では「愛着を感じている」は72.9％となっており、他区と比べ最も低い割合となっています。加えて、就職を希望する地域として南相馬市内を選んだ割合は16.6％にとどまり、鹿島区は他区と比べ最も低くなっています。本調査結果では、南相馬市への愛着や定住への意識は、中学生よりも高校生の方が低くなっています。

南相馬市中高生意識調査（令和4年）

【南相馬市への愛着】



【就職を希望する地域】

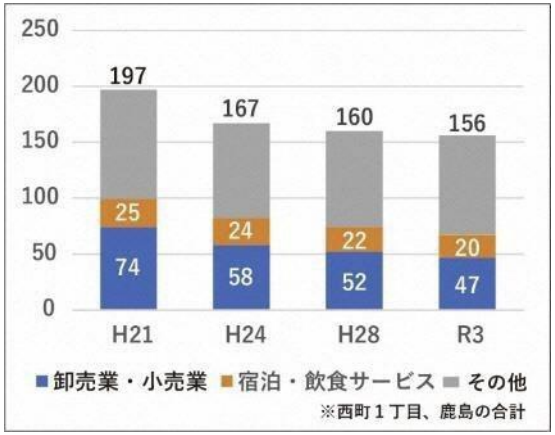


（1）南相馬市及び鹿島区の概要

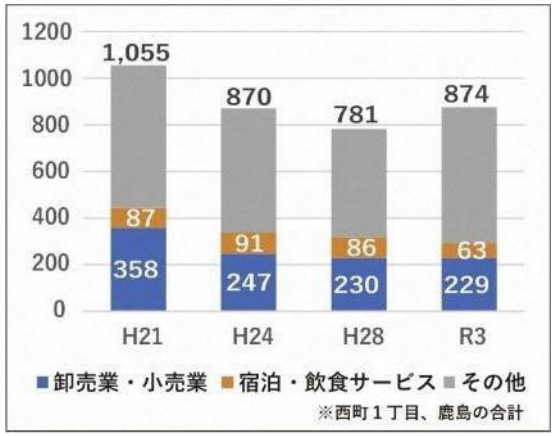
事業所

鹿島区市街地における事業所・就業者数はともに減少傾向にあります。令和3年は事業所数156、就業者数が874で、平成21年と比較するとともに約8割となっています。

卸売業・小売業、宿泊・飲食サービス業が減少傾向にあります。特に卸売業・小売業は減少幅が大きくなっており、令和3年には事業所数47、従業員数229で、平成21年と比較すると、約6割となっています。



事業所数の推移（経済センサスより）



従業員数の推移（経済センサスより）

主なイベント

鹿島区では、一年間を通して様々なイベントや祭礼行事等が行われ、住民や来訪者が集まり、にぎわいをみせています。特に、相馬野馬追（北郷本陣祭）は、観光客も多く訪れ、まちなかに野馬追で使用する色とりどりの旗が飾られます。一方、鹿島区内の主なイベントは平成17年には7件あったものが、令和7年現在は4件に減少しています。

主なイベント・行事（令和7年実績）

実施時期	イベント・行事名称
1月第2土・日曜日	火伏せまつり
5月	相馬野馬追（北郷本陣祭）
8月	かしまの夏祭り・盆踊り大会
10月	かしま産業祭

（1）南相馬市及び鹿島区の概要

移住者等

南相馬市は、宝島社が発行する「田舎暮らしの本」（2026年2月号）で発表された「2026年版 第14回 住みたい田舎ベストランキング」において、人口5万人以上10万人未満の市の子育て世代部門で全国第1位に選ばれました。このほか、総合部門では全国第2位、若者世代・単身者部門では全国第2位、シニア世代部門では全国第3位と、多世代にわたり高く評価されました。

本市では、移住する際重要なポイントとなる住まいや働くための支援に加えて、切れ目のない子育て支援にも取り組んでいます。また、実際に南相馬市への移住を経験したコンシェルジュによる移住相談窓口の開設や移住者交流会を実施しており、移住後のサポート体制も整え、県内外から多くの移住者を受け入れています。また、移住検討者が、南相馬市での生活を体験する施設として「お試しハウス」（小高区）を提供しています。







お試しハウス外観・内観

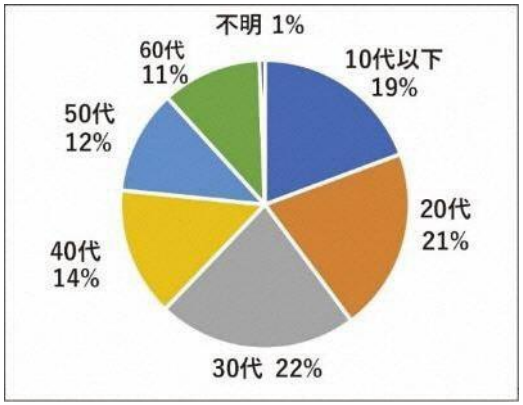
https://minamisoma-yorimichi.jp/iju-support_menu/otameshi-house/

移住者数の推移をみると、南相馬市全体では令和３年以降増加しており、鹿島区では令和5年から増加しています。年齢構成をみると、10代以下～30代が多くなっており、子育て世帯が増えていることがうかがえます。

各区の居住人口に占める移住者数の割合は、鹿島区2.7％、原町区3.9％、小高区5.0％で、鹿島区が最も低くなっています。



移住者の推移（南相馬市資料より）



令和６年の移住者の年齢構成（南相馬市資料より）

鹿島区の現況

鹿島区は、縄文時代から続く長い歴史を有している地域です。奈良期には陸奥国真野郷として都人のロマンを誘い、万葉集に歌われた雄大な萱原が広がっていたほか、文化・民俗遺産や遺跡が数多く残っています。

現在の市街地は、旧陸前浜街道（県道浪江鹿島線沿道）及びＪＲ常磐線鹿島駅周辺を中心に、鹿島区の中心となる多様な都市機能が集積しています。市街地の周辺には真野川等の河川、唐神溜池等の湖沼、優良な農地、山林のほか、海岸部では真野川漁港を中心とした豊かな自然に恵まれています。

内陸部では、常磐自動車道の南相馬鹿島SAと一体的にセデッテかしまを整備し、地域内外から多くの利用者が訪れています。沿岸部の烏崎海岸は、人気のサーフスポットです。相馬野馬追の開催目前には、早朝、出場予定の馬を鍛える錬馬（れんば）の様子を見ることができます。ほかにも沿岸部には、真野川漁港や万葉の里風力発電所など、鹿島ならではの風景が広がっています。真野川親水サイクリングロードが海岸部、市街地とセデッテかしまをつないでいます。



セデッテかしま



烏崎海岸

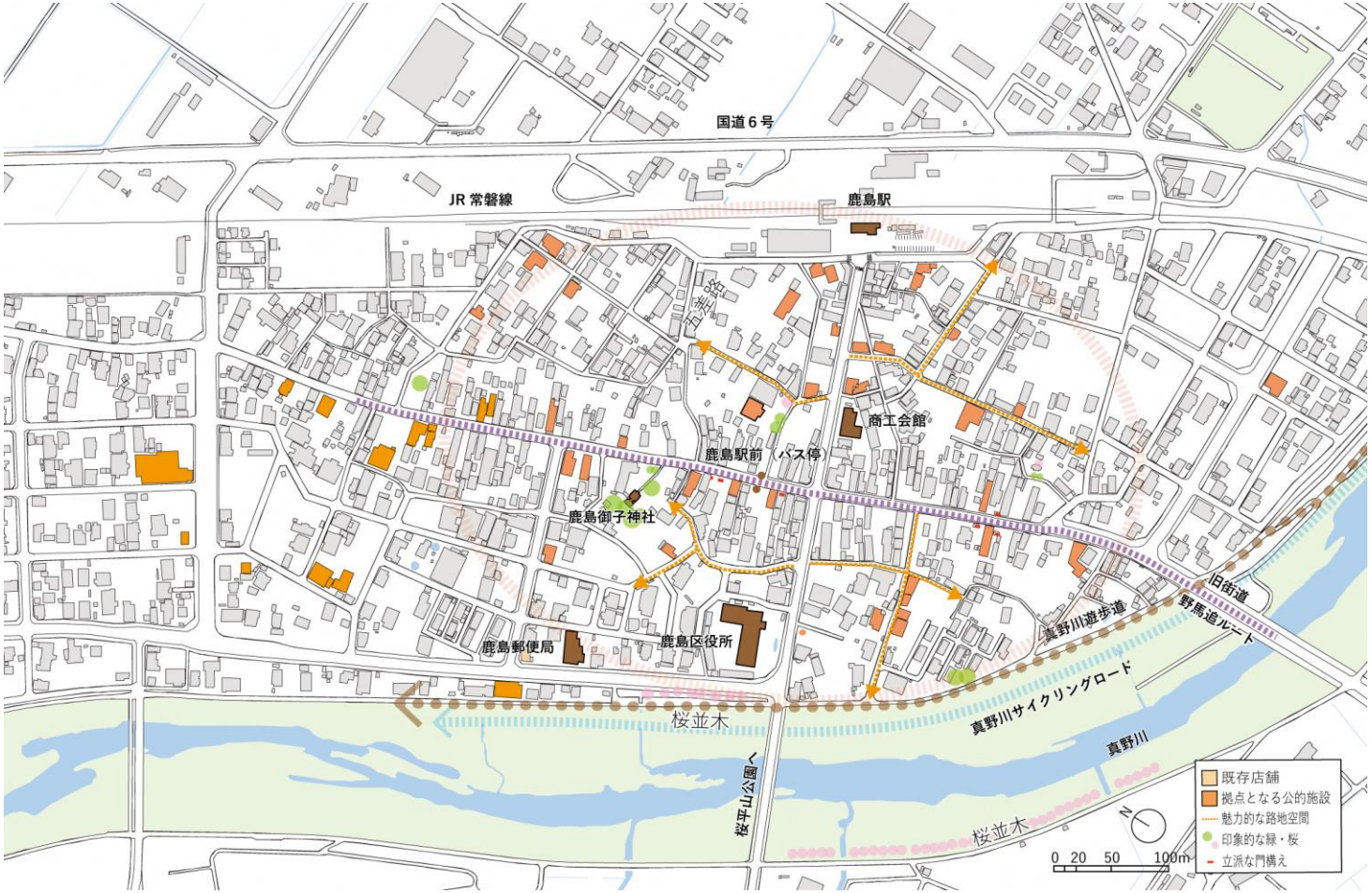


（1）南相馬市及び鹿島区の概要

鹿島区市街地

福島県道浪江鹿島線沿線は、古くから街道沿いのまちとして形成され、かつては商店等がたち並び賑わっていました。現在も、店舗や飲食店が点在していますが、年々減少しています。また、県道沿線にある鹿島御子神社では伝統行事である火伏せまつりなどが行われます。鹿島駅を起点とする県道大芦鹿島線は、沿道に商工会館や鹿島区役所が立地し、真野川をわたると、桜平山公園や県立相馬支援学校へとつながります。真野川はサイクリングロードや遊歩道が整備され、春には桜並木も楽しむことができます。

以前は福島県道浪江鹿島線沿線に多くの店舗が軒を連ねていましたが、東日本大震災をはじめとする大きな地震や新型コロナウイルス感染症の影響もあり、多くの店舗が閉店し、空き家や空き地が目立つ状況となっています。一方で、移住者等による新たな店舗も少しずつ増えています。




駅から真野川へ続く通り


県道浪江鹿島線


真野川サイクリングロード

（2）関連・上位計画

南相馬市第三次総合計画（令和5年3月）

南相馬市のまちづくりの指針として策定した計画であり、計画期間は令和5年度（2023）～令和12年度（2030）までの8年間です。

まちづくりの基本目標『未来の南相馬の姿』として、「100年のまちづくり～家族と友人とともに暮らし続けるために～」とし、７つの「政策の柱」を掲げています。本計画に関連する施策・取組は、下記のとおりです。

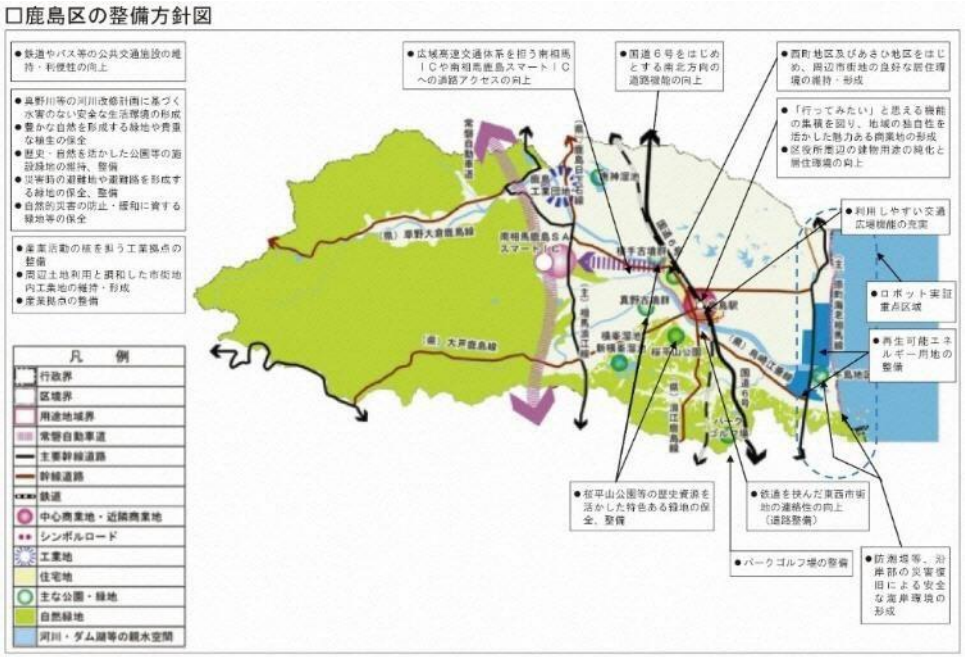
政策の柱４　産業・しごとづくり・移住定住
　施策28　通年観光の推進
　主な取組例　地域資源（文化遺産等）を生かした魅力発信・シティプロモーションの推進ほか
政策の柱５　都市基盤・環境・防災
　施策36　公共交通の確保
　主な取組例　JR常磐線の利用促進　ほか
政策の柱６　地域活動行財政
　施策45　地域コミュニティの再構築と活性化
　主な取組例　・各区の特色あるまちづくりの推進　ほか

南相馬市都市計画マスタープラン（平成30年3月）

総合計画に掲げる将来像の実現に向けた都市計画・都市計画の方向性及び今後の取組の考え方を明らかにする計画であり、平成29年（2017）から概ね20年後の将来像を見据え、目標年次を平成47年度（2035）としています。

地域別構想において、鹿島区のまちづくりに関しては、「人と人がつながる、心豊かな万葉の里」を目標とし、「コンパクトな地域拠点の形成」、「地域情報を発信するまちづくり」、「健康で交流をはぐくむまちづくり」を都市づくりの方針として掲げています。

□鹿島区の整備方針図

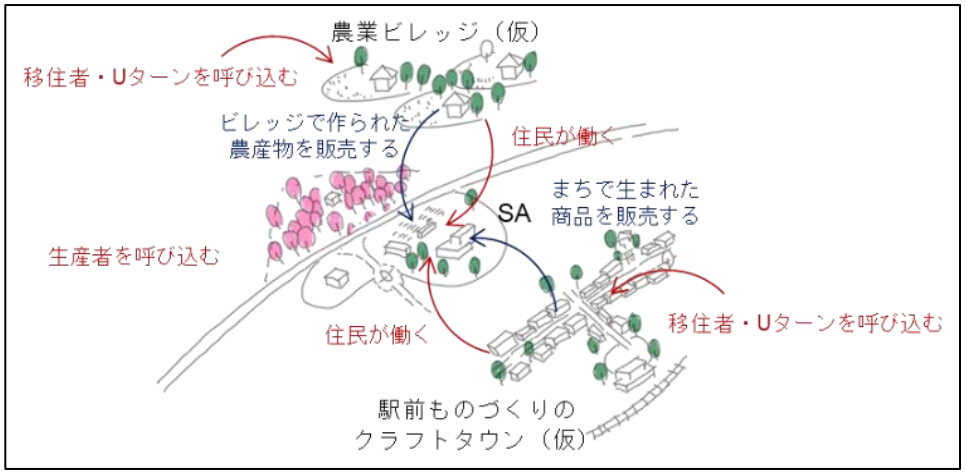


（2）関連・上位計画

南相馬鹿島サービスエリア周辺開発基本計画（令和7年8月）

セデッテかしまの優れた集客力を最大限に活かし、市内の地域活動や経済に波及させることによりまちを元気にするため、事業コンセプトを示し、共通認識の下にコンセプトを実現するための事業を進めるべく策定した計画です。

計画では、「まちをつくるSA」を事業コンセプトの一つとし、「SAに大きな市場があることをフックに、例えば駅前にものづくりのクラフトタウン（仮）、農業ビレッジ（仮）が形成されるよう生産者や移住者を呼び込む」ことにより、まちの再生を目指すこととしています。



（3）鹿島駅及び駅周辺の現状

鹿島駅は、明治31年（1898）の開業以来、多くの住民や来訪者が利用する鹿島の玄関口でした。近年は利用者数が減少し、平成28年（2016）には無人駅となっています。現在の1日あたりの利用者は約500人で、その半数以上が通学で利用する高校生となっています。

鹿島駅舎は福島県内のJR常磐線において最も古い駅舎であり、常磐線の歴史を現在に伝える貴重な歴史的建造物です。また、鹿島区内唯一の鉄道駅であり、高校がない鹿島区においては、通学のために大部分の地区住民が毎日利用していた思い入れの強い場所ですが、老朽化や度重なる地震により損傷を受けました。ＪＲでは駅を安全に利用できるよう定期的な点検を行っていますが、長期的な視点に立てば安全性の確保が必要な状況です。

鹿島駅と隣接する鹿島区市街地では、人口減少・少子高齢化が進行し、店舗・事業所が減少しています。まちなかでは、交流の場や機会が減少し、住民同士のつながりが薄れ、若い世代や子どもなどが地域に関わる機会も少なくなりつつあります。本市が2024年に行った市民意識調査では、前回調査(2022年)に比べ「今後も南相馬市で暮らしたい」という意向について鹿島区においては8.7ポイントの減となっています。このような状態が続くと、若い世代を中心とした人口流出やそれに伴う労働力不足、地域コミュニティの弱体化等、地域活力の低下が加速化し、区民の利便性を著しく低下させる恐れがあります。



明治時代の鹿島駅舎



現在の鹿島駅舎

（3）鹿島駅及び駅周辺の現状

駅関連施設の現況

ホーム
・駅舎に鉄骨フレームの庇が付属しており、ベンチが設置されている。
・歴史を感じさせる駅名看板がある。



南面下屋
・駅舎に付属して下屋が設置されている。

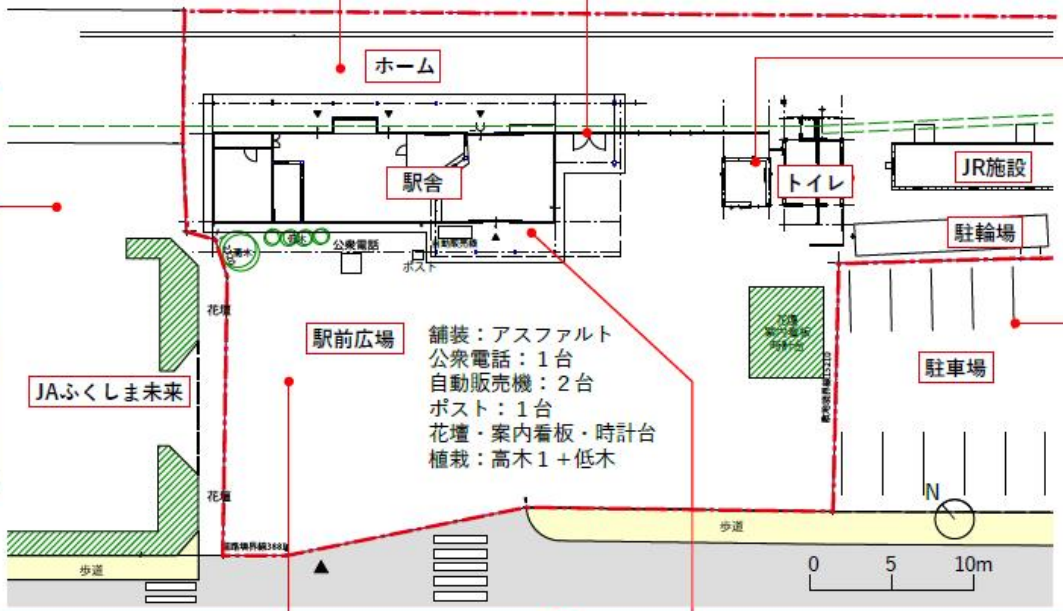


屋外トイレ
・定期的に清掃が行われている。
・駅舎の外観との統一感はない。



JAふくしま未来敷地
・過去には店舗として営業していた。
・駅前広場に面した個所は、事務所駐車場として利用されている。





駐車場
・月極駐車場と日極駐車場（2台）。
・利用車両は市道及び駅前広場から出入りとなる。
・南相馬市かしま観光協会による管理。



駅前広場
・送迎車両の停車位置等の使い方のルールが決められていない。
・歩車分離ができていないため危険。
・タクシープールが設置されているが、利用されていない。
・公衆電話、自動販売機、花壇など、駅舎前面整備に合わせた移設等検討も必要。



駅舎ファサード・外装
・駅前通りに正対し、シンボル性がある。
・広く東西に抜ける大きな開口がある。
・印象的な駅前看板がある。
・外装はサイディングで覆われている。

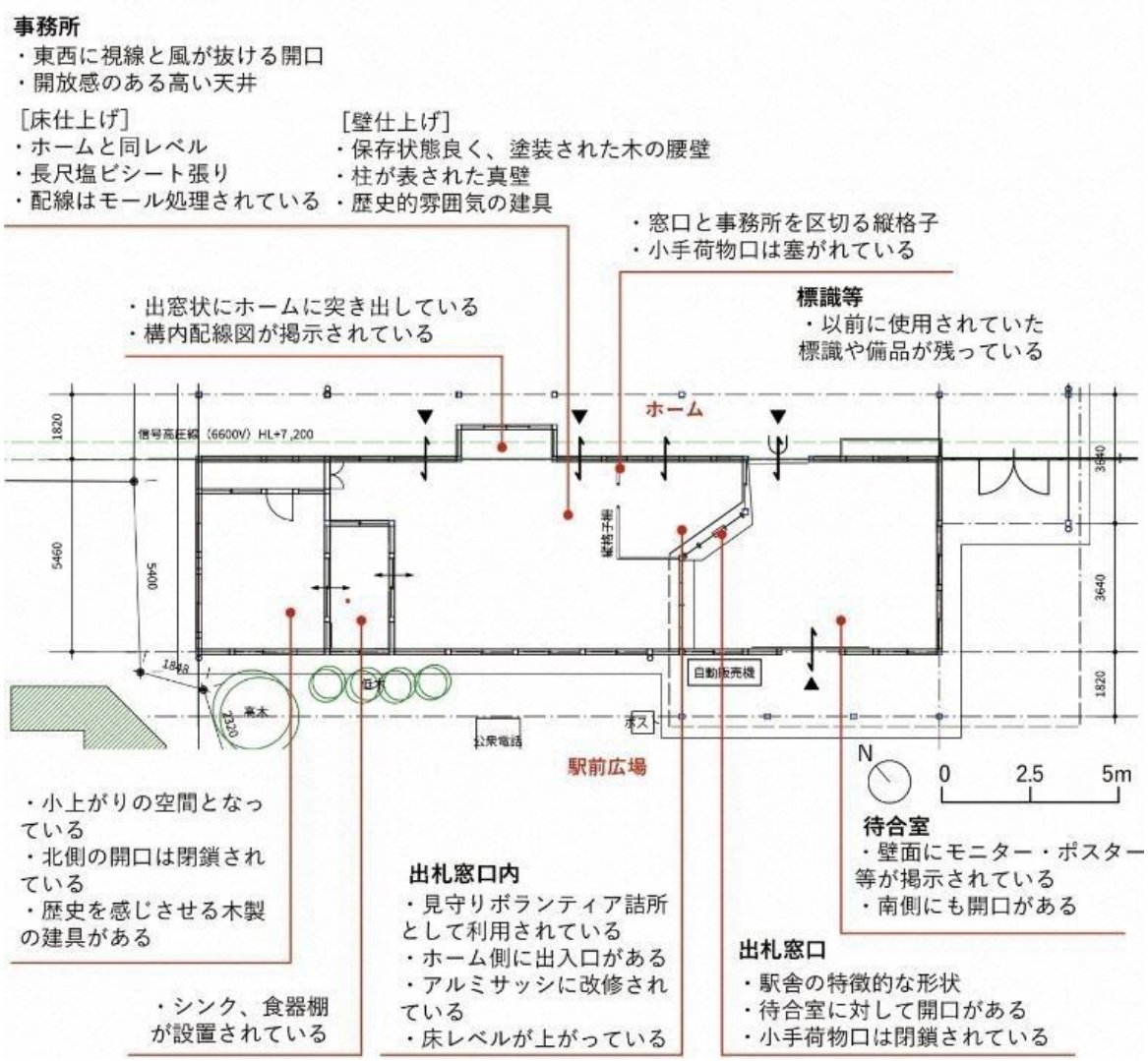


南相馬市 MINAMISOMA

（3）鹿島駅及び駅周辺の現状

駅舎の現況

待合室は鉄道利用者のためのスペースとなっていますが、事務所は利用されていない状況です。出札窓口内は、見守りボランティアの詰所として利用されています。



（3）鹿島駅及び駅周辺の現状

鹿島駅駅舎の概要

・所在地：福島県南相馬市鹿島区鹿島字御前ノ内 地内
・建築年：明治31年　（築127年）
・構造：木造
・規 模：116㎡

鹿島駅舎の歴史

明治31年（1898）日本鉄道会社　海岸線（磐城線）の駅として開業
平成23年（2011）（3月） 東北地方太平洋沖地震発生　震度6弱
東日本大震災により営業停止
（12月）原ノ町－相馬間の運転再開に伴い営業再開
平成28年（2016）無人化
令和３年（2021）（2月） 福島県沖地震発生　震度5強
令和４年（2022）（3月） 福島県沖地震発生　震度6強

鹿島駅舎の改修に至るまでの経緯

・築127年を迎えた鹿島駅駅舎は、福島県内のJR常磐線において最も古い駅舎であり、常磐線の歴史を現在に伝える貴重な歴史的建造物です。一方、長期的な視点に立てば安全性の確保が必要な状況です。

・令和５年２月に駅舎の所有者であるJR東日本より市に対し、駅舎改修計画が伝えられました。その内容は、改札と待合機能のみを維持する駅舎のコンパクト化を図るものでした。

・鹿島区内唯一の鉄道駅であり、高校がない鹿島区においては、通学のために大部分の地区住民が毎日利用していた思い入れの強い場所であることから、JR東日本の駅舎改修計画の内容を知った鹿島区民からは鹿島駅駅舎の保存を求める声が多く市に寄せられました。

・こうした声を受け、現駅舎の保存を前提に市として駅舎改修に取り組むこととしました。

鹿島駅の利用状況

鹿島駅は、JR常磐線の駅であり、普通列車が停車します。1日あたりの利用者数は554人（調査日：令和6年5月17日）で、その内約54％を中・高校生が占めています。大学生・若年層を含めると、8割以上が若い世代の利用となっています。朝と夕方の通学時間帯に利用者が多くなっています。

平成28年（2016）から無人駅となっていますが、鹿島ボランティア連絡協議会や南相馬市青少年育成市民会議鹿島地区推進協議会による鹿島駅見守りボランティア活動により、駅構内の利用者への見守り（挨拶・声掛け）や安全確認が行われています（毎週金曜日15:45～17:45、祝日、学校の長期休暇、年末年始は活動なし）。

かつては、駅前広場に隣接してスーパーも立地し、駅前広場には多くの住民が集まり、盆踊りも行われていました。現在、駅前の花壇の管理や定期的な清掃が地元で行われている他、イルミネーションや相馬野馬追の時期には街頭旗が設置されています。

小人以下	中・高校生	若年層	壮年層	シニア層	総計
3 人	309 人	137 人	65 人	40 人	554 人
0.5%	55.8%	24.7%	11.7%	7.2%	－

鹿島駅利用者数調査（市調査）
調査日：令和6年5月17日（金）6:00～19:00

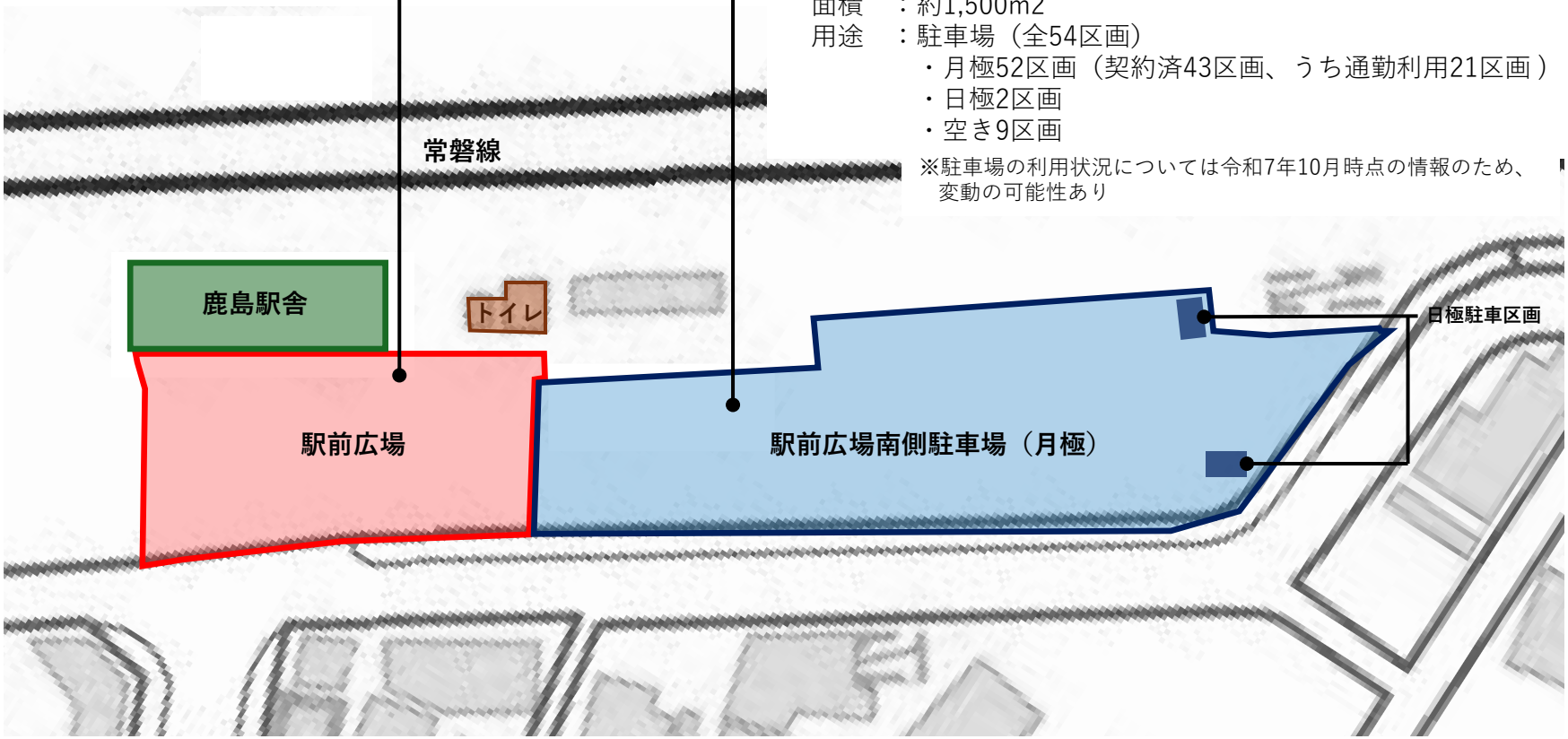
（3）鹿島駅及び駅周辺の現状

駅前広場及び駅前広場南側駐車場の概要

駅前広場
所有者：JR東日本
面積　：約700m2

駅前広場南側駐車場
所有者：南相馬市
管理者：一般社団法人 南相馬市かしま観光協会
面積　：約1,500m2
用途　：駐車場（全54区画）
・月極52区画（契約済43区画、うち通勤利用21区画）
・日極2区画
・空き9区画

※駐車場の利用状況については令和7年10月時点の情報のため、変動の可能性あり



（4）駅舎利活用にあたっての課題と事業目的

現状と課題

まち

現状

・人口減少や少子高齢化が進行し、店舗・事業所も減少。
・鹿島区の現在の人口構成から、若い世代の地域外への流出傾向を読み取れる。
・特に若い世代は、高校卒業後に進学や就職などで地域外へ出て行ってしまい、鹿島には戻ってこないことが多い。
・市民意識調査においても、定住意向や市への愛着が低下傾向にある。
・これらの要因として、まちなかにおいて地域の住民等が気軽に集まったり、日常的に出会う場所が減少していることやイベント等の減少、住民同士の交流の減少が考えられます。

課題

地域への愛着を醸成する機会をつくることが必要

地域の活力を維持していくためには、地域住民の定住を促進することが必要です。若い世代の定住には、まず、地域に対する愛着醸成が必要であり、鹿島の「まち」「ひと」「自然」の魅力を知ってもらう多様な機会をつくり、市外に出ても、地域に対する魅力を感じ続けてもらえるよう働きかけることが重要です。また、鹿島区を持続可能な地域とするためには、移住者の誘導も必要です。

鹿島駅舎

現状

・福島県内の常磐線の駅舎で最も古く、歴史的な価値を有している。
・鹿島区内唯一の鉄道駅であり、高校がない鹿島区においては、通学のために大部分の地域住民が毎日利用していた思い入れの強い場所。
・これらのことから、現駅舎の存続を求める声が上がった。
・鹿島区には高校が無いことから、地元の高校生の大半が通学のため日常的に利用する場。
・高校生からは、放課後は学校のある地域で過ごすことが多いとの声が聞かれた。
・現在は駅員のいない無人駅であることから、不安を覚えるとの声もある。

課題

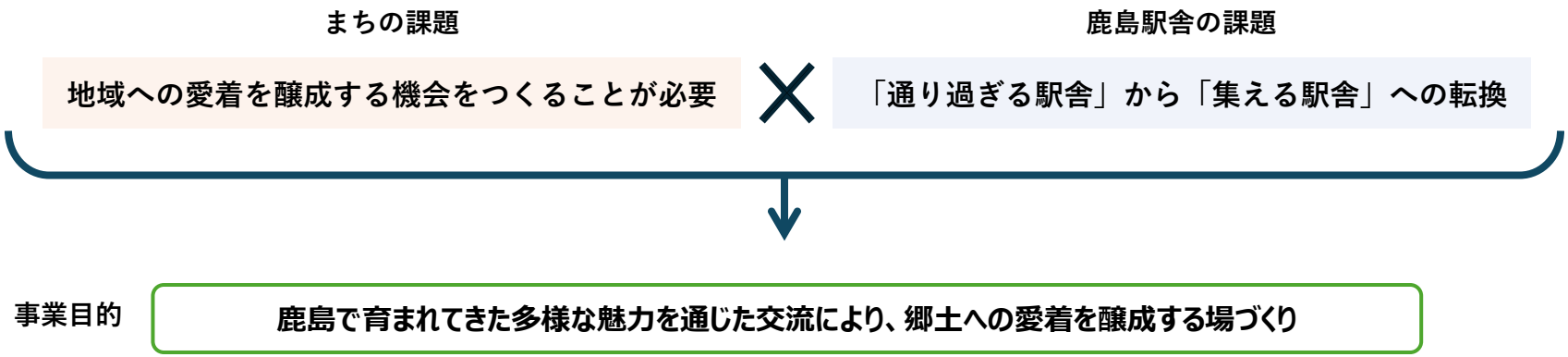
「通り過ぎる駅舎」から「集える駅舎」への転換

現在の駅舎は空調設備が無く、十分な広さがないことから、駅舎利用者が足を止めて集うような場にはなっていません。このため、現駅舎の保存活用にあたっては、現在利用されていないスペースも含めた利活用方法を検討する必要があります。

利活用の検討にあたっては、より多くの地域住民が駅舎を利用したくなる仕掛けが必要です。また、駅舎のコアユーザーである高校生の居場所としての検討が必要です。

（4）駅舎利活用にあたっての課題と事業目的

事業目的



若い世代を中心とした地域住民が地元への愛着を持ちにくい背景には、イベントや交流機会の減少により、地域とのつながりを得る機会が失われていることがあげられます。住民の定着を促進するためには、地域に対する愛着の醸成が不可欠です。そこで、歴史的な価値を有し、多くの住民が深い思い入れを持つ「鹿島駅舎」を、郷土への愛着を育む場として活用します。本事業では、この駅舎において鹿島の「まち」「ひと」「自然」の魅力を再認識できる多様な機会を創出し、それらを通じた交流によって地域への愛着を醸成する場づくりを行います。

鹿島駅舎は地元の高校生の多くが通学のために日常的に利用する場です。地域住民間の交流の場において若い世代の主体的な利用を促すことが大きな課題となりますが、本事業では「高校生が毎日必ず訪れる」という鹿島駅舎利点を活かします。高校生が日常的に利用する場と地域の人々が活動する場を重ね合わせることにより、特別なイベントとしてではなく自然な形で、多様な世代の地域住民間の接点を創出し、交流を促進します。

鹿島らしさが随所に息づく場となる駅舎は、地域外からの来訪意欲を喚起します。移住検討者を含む地域外からの来訪者（以下、来訪者）が駅舎で展開される地域の活動やそこに集う地域住民との交流を通じて、鹿島をより深く知り、繰り返し訪れ、移住意欲を高めることにつながります。そして、地域住民が郷土への愛着を醸成するうえで、来訪者との交流は重要な役割を担います。地域住民にとって、客観的な視点をもつ来訪者との対話は見慣れた日常を鹿島の魅力として再認識するきっかけとなることから、このような交流を経て鹿島の魅力をより深く知ることにより郷土への愛着を醸成し、定住意欲の向上へとつなげます。

①鹿島の魅力を見つめなおす場所とします

鹿島の魅力として、歴史や文化を表現する相馬野馬追などの伝統行事や祭礼行事、豊かな自然である阿武隈山系の山並みや河川、海岸の風景、想いや温かさを感じる生業に関わる手しごとや地域住民による多様な活動などがあげられます。 ただ、地元で暮らしているとそれらは日常の一部となり、改めてその価値に気づくことは少ないものであり、知るきっかけがないと地域外からの来訪者が関心を寄せることもありません。　地域住民が駅舎を利用することで地元のことを再認識するとともに、来訪者も鹿島の魅力を体感する場とします。

鹿島の魅力の一例


イベント(南相馬フェス)


相馬野馬追


手しごと


地元の学童・生徒の取組


街頭旗立て作業


郷土食（味噌づくり）


烏崎海岸での錬馬

②鹿島の居場所とします

現在の駅舎の主な利用者層である高校生へのヒアリングを行ったところ、鹿島区内で過ごせる場が極めて限られており、自宅以外に自分の居場所を見出しにくい現状が浮かび上がりました。このため、高校のある小高区や原町区、市外で友人達と過ごす時間が長くなるのが現状です。鹿島区で過ごす時間が増えてこそ鹿島での思い出が増え、地元への愛着を育むことにつながると考え、鹿島における居場所づくりを行います。

③交流が広がる場所とします

現在鹿島区内では、かしま交流センターや鹿島生涯学習センターがサークル活動や教室等の活動を行う場として活用されています。これらの場所は閉じられた空間のため、他者の目に触れる機会も無く、活動の広がりが期待出来ない状況にあります。今回、駅舎を地域住民が日常的に利用できる場とすることにより、この場で行われる活動に触れ、参加しやすい環境を整えます。また、人の往来が多いという駅舎ならではの特長を活かし、活動を通じた交流の活発化も期待されます。

駅舎内で行われる「鹿島の魅力を見つめ直す」取組は、地域住民と来訪者をつなぐコミュニケーションツールとしての役割を果たし、両者の間に自然な交流をもたらします。こうした交流を通じ、地域外からの客観的な視点で鹿島の魅力についての意見を聞くことは、地域住民にとって、自分たちが暮らす地域の価値を再認識し、愛着を持つきっかけとなります。また来訪者にとっては、鹿島のことをより深く知り、関わるきっかけとなります。

（6）施設計画

①外観計画 - 施設のイメージ



（6）施設計画

①外観計画 - 施設のイメージ（駅前広場）



（6）施設計画

①外観計画 - 外観の考え方

鹿島駅舎の歴史性を活かしながら、大きな開口を設けるなど、駅前広場、鹿島区市街地に開く外観とします。基本的な考え方を以下に整理します。

大開口を設け駅前広場に対して開きます

駅前広場や市街地からの見通しを確保し、開かれた設えとします。大きな開口を設けるとともに、出入口を設置します。外から施設内の様子が見えることで、中の活動を知ったり、安心感が得られるようにします。また庇を連続させることで、建物前面でも活動が生まれるようにします。

鹿島の歴史や文化を感じられる外観とします

地域住民に馴染みがあり、歴史的な価値を持つ鹿島駅の雰囲気を継承します。木造の建物であるため、改修後も木材を活用し温かみのある場とします。また、相馬野馬追の文様をデザインとして取り入れるなど、鹿島の魅力をかたちづくっている歴史や文化を感じられる外観とします。また、野馬追の旗指物の文様にまつわるバックストーリーを駅舎内に展示する等、外観をきっかけにその背景が持つ魅力を駅舎利用者を届けます。

駅利用者の利便性を向上させます

下屋の庇を多目的トイレまでつなげることで、天候に左右されず円滑に移動できる環境を整えます。これにより、駅舎利用者の利便性を高めます。



外観の方針

（6）施設計画

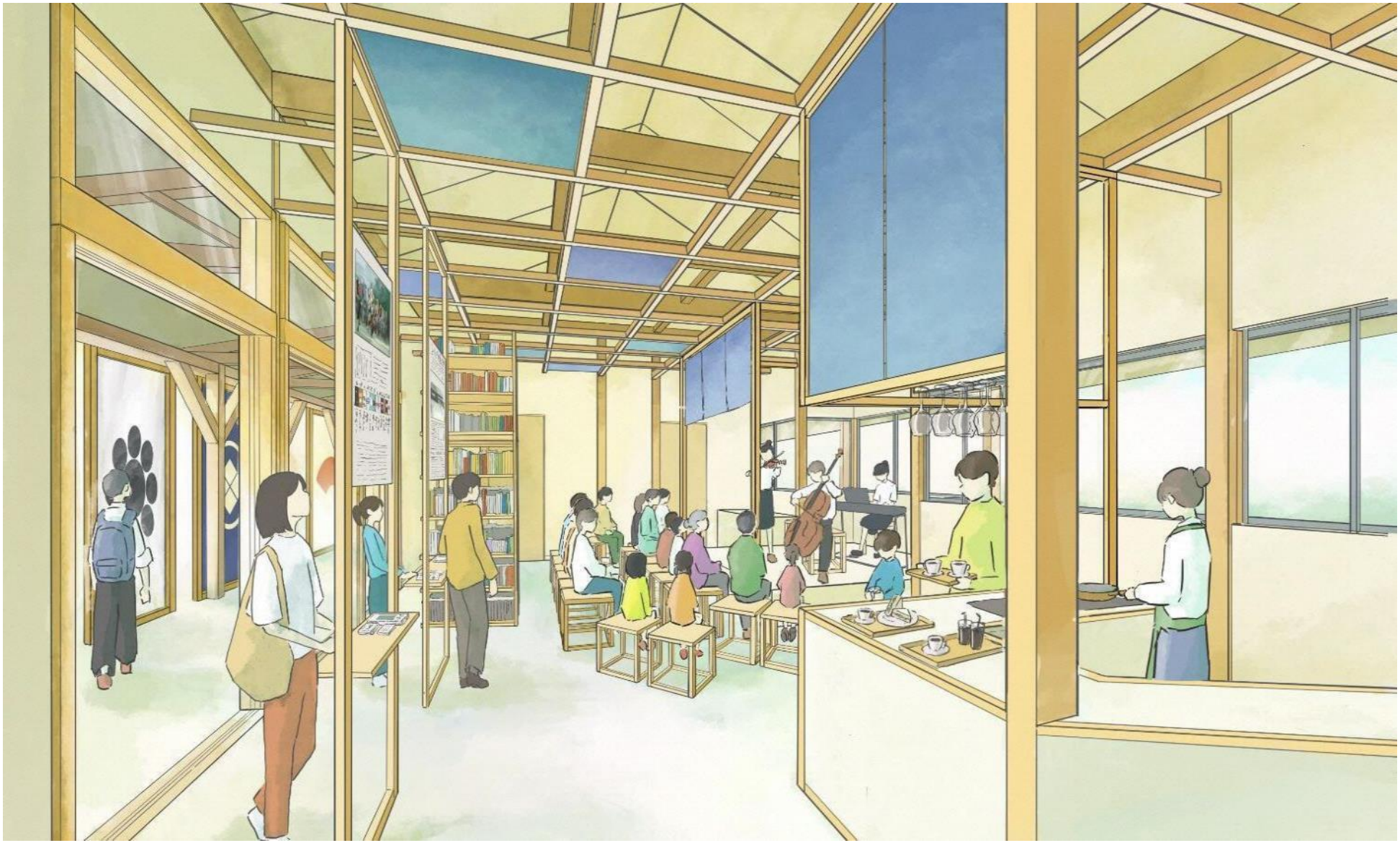
②内観計画 - 施設のイメージ（平常時）



南相馬市 MINAMISOMA

（6）施設計画

②内観計画 - 施設のイメージ（イベント時）



南相馬市 MINAMISOMA

（6）施設計画

②内観計画 - 内観の考え方

歴史的な意匠を活かしながら、施設利用者が鹿島らしさを感じられ、また、交流のきっかけをつくる内観とします。具体的な考え方を以下に整理します。

鹿島住民の暮らしや活動が感じられる内観とします

鹿島のまちなかから集めた素材、住民等の手作りの素材を内装材として用い、空間を彩ります。空き家にある伝統的な部材や建具、道具、古い布材などを用い、鹿島に関わる人々の暮らし、活動が感じられるよう演出します。

鹿島のこどもたちの作品等を展示します

従来の駅舎では、施設内の展示等についてＪＲの許可を得る必要がありましたが、改修後は市の施設となるため、市として保護者等の施設利用を促進します。

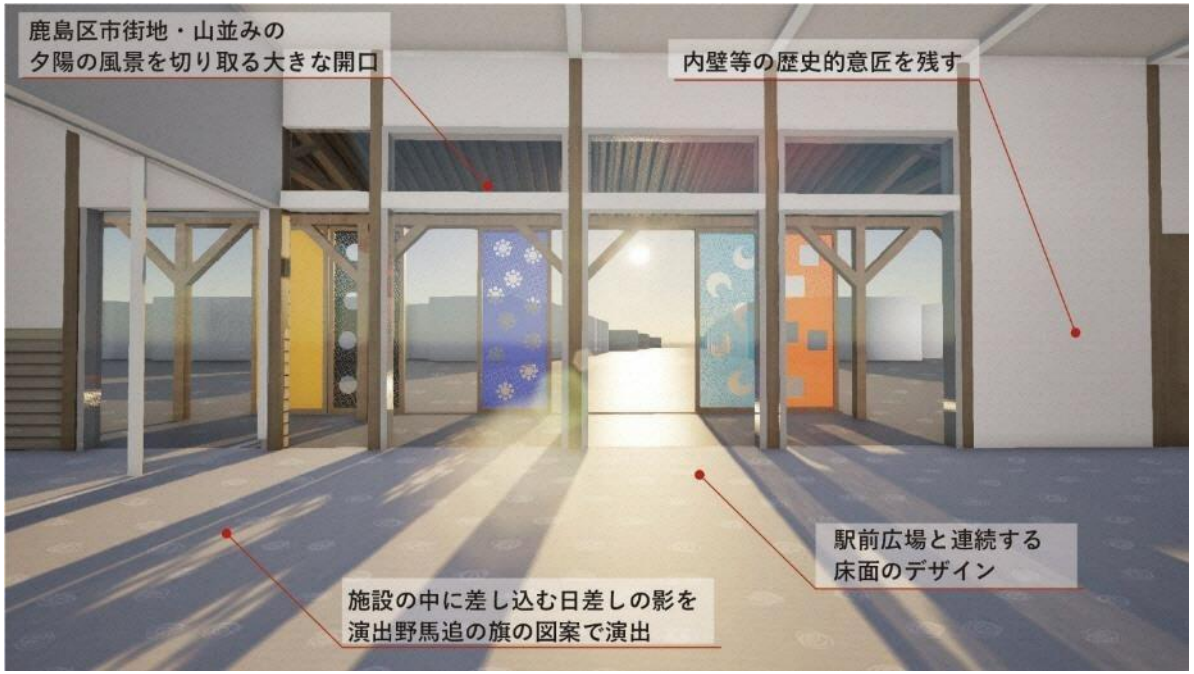
また、近年、アール・ブリュット※がその独創性から高く評価されています。本事業では鹿島区に立地する相馬支援学校や鹿島小学校などの子どもたちが持つ表現活動の豊かさに着目し、制作された作品等の展示も積極的に行います。

※アール・ブリュット

フランス語で「生の芸術」を意味し、正規の美術教育を受けていない人々が独自の発想と方法で制作する芸術を指す。この概念は1940年代にフランスの画家ジャン・デュビュッフェによって提唱され、彼は独学の作家たちの作品に純粋な創造性を見出した。

建物内から鹿島の風景が感じられる内観とします

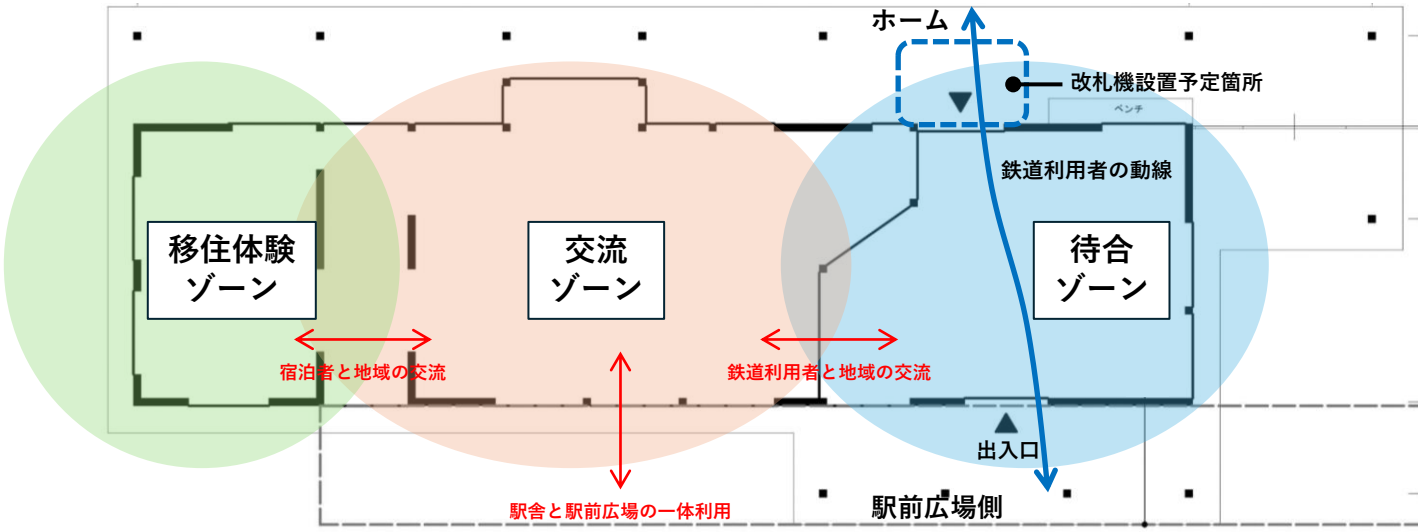
鹿島区市街地の風景を魅力的に見せます。施設からは、駅前通り、さらには山並みに沈む夕陽の風景を見ることができます。大きな開口を設け、風景を切り取り、また、差し込む日差しの影の演出などを行います。鹿島区市街地に視線を誘導し、まちへ活動が広がるきっかけとします。



内観の方針

（6）施設計画

③ゾーニング - 全体



移住体験ゾーン（約24m2）

- 移住希望者が宿泊可能なゾーンとします。
- ホーム側に窓を設けるなど、駅舎という特別な環境を活かし、楽しみながら滞在ができる空間づくりを行います。
- 交流ゾーンの活用を促進し、滞在中は容易に地域住民と交流できるようにします。

交流ゾーン（約56m2）

- 地域住民の日常的な居場所として、またイベントやサークル活動等の実施など、多様な用途での利活用を可能とします。
- 鉄道利用者の多い時間帯は、待合ゾーンと連携して、待合としての利用も可能にします。
- イベント時には駅前広場とつながり、一体的に利用できるようにします。

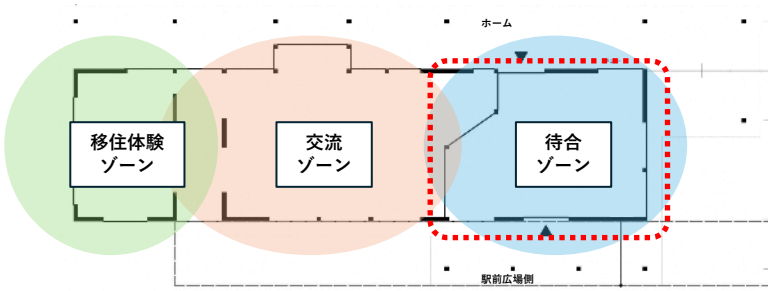
待合ゾーン（約36m2）

- 鉄道利用者の待合のためのゾーンとして、待合機能を充実させます。
- 24時間開放（施錠しない）エリアとします。
- 来訪者に向けて情報発信を行います。
- 展示スペースを充実させ、鹿島の歴史、鹿島区内の取り組みや情報発信を行う場として活用します。

南相馬市 MINAMISOMA

（6）施設計画

③ゾーニング - 待合ゾーン





自習利用



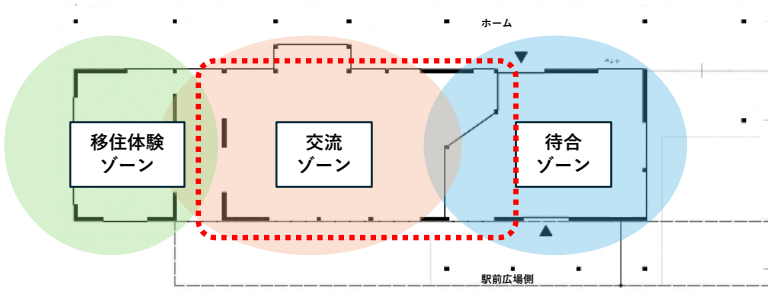
談話及び休憩等の利用

主な利用者層	高校生を中心とした鉄道利用者
主な利用者層の声	鹿島駅の主な利用者層である高校生を対象として、駅舎の利用実態に関してヒアリングを実施。 ・現在の駅舎は、鉄道利用者が利用するための施設であることから、滞在する場所ではなく鉄道利用のための通過点に留まっている。 ・日常的に過ごす場所に関しては、平日は学校、家、アルバイト先であることが多く、休日は区内に出かけたいと思える場所が少ないため、家に居るか区外に出てしまうことが多い。 ・自習に関しては、アクセス面から原ノ町駅前の市立中央図書館で行うという声が圧倒的に多い。一方、自習や談話等が可能な場があれば、日常の動線上にある鹿島駅舎を積極的に利用したい。 ・図書館について、桜平山では車がないと利用が大変。街なかで本が借りられる環境があると良い。
本ゾーンに求められる場	・空調設備を備えた待合スペース ・自習スペース ・図書貸出スペース

高校生を中心とした鉄道利用者が待ち時間を快適に過ごす場

（6）施設計画

③ゾーニング - 交流ゾーン





活動の実施・発信



談話及び休憩等の利用

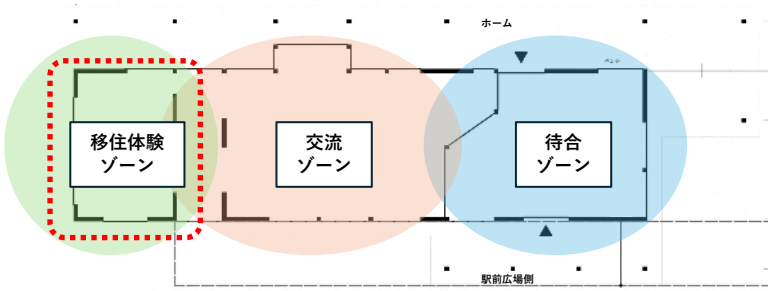
主な利用者層	地域住民・区内小学校・相馬支援学校ほか
主な利用者層の声	地域で活動する団体や個人を対象に、各々が取り組んでいる活動を行う場所としての活用可能性についてヒアリングを実施。 ・関係者以外の目が届かない空間で活動しており、活動の広がりを感じられない。開かれた場で活動することで、日常的な取組自体が情報発信となり、さらなる活動の活発化が期待できる。 ・自分達と同様に日頃活動に取り組んでいる方々とも相互の活動に参加し合い、共に作業を行うことで日頃得られない気付きや交流が生まれる。 ・活動の発表だけでなく、日常的な取組（作業など）をこの場で行うことで、地域とのつながりを得ることが期待できる。 ・児童や生徒の取組成果を広く地域の方に見て欲しいが、非常に機会が限られている。人の往来が活発な場で日頃の成果を展示できれば、取組に対するモチベーション向上に効果的であり、地域住民の方々とつながるきっかけを得ることも期待できる。
本ゾーンに求められる場	・各々の活動主体の取組に対応できるよう、可変性のあるレイアウトが可能な場 ・行われている活動が待合ゾーンからも視認することが出来、気軽に往来可能な場

活気ある交流と穏やかな日常が共存する、開かれた地域住民の居場所

南相馬市 MINAMISOMA

（6）施設計画

③ゾーニング - 移住体験ゾーン





地域住民との交流



鹿島の魅力に触れる

主な利用者層	移住検討者
先行事例等	・先行事例（駅舎を移住体験施設に改修）の運営者へのヒアリングを行ったところ、移住を検討しているものの特定の移住先を決めていない層にとって、お試し滞在施設の特色が来訪動機になるとのこと。こういった層に対して「駅で暮らす」という特色は訴求力が高く、来訪・滞在を促すことにつながっているケースが多い。この訴求点をフックに当該地域との交流が生まれ、二拠点や多拠点居住地のひとつとしてリピート利用につながっている。 →駅舎に移住体験機能を導入する取組は全国的にも稀な事例であり、鹿島駅舎での導入も移住検討者の関心を集め、来訪意欲を喚起させることが期待される。 ・本市の移住窓口運営者にヒアリングを行ったところ、地域をよく知る人の案内があると、現地のリアルな声を聞くことが出来るため、移住意思を決定するうえで有用であるとのこと。また、Ｉターン移住検討者の意思決定において「地区住民との関係性を構築すること」が重要視されている調査結果（パーソル総合研究所「地方移住に関する実態調査」（Phase1）より）が出ている。 →移住体験ゾーンと地域住民が日常的に利用する交流ゾーンを隣り合わせ、移住検討者が地域住民との交流機会を得ることが可能な場づくりを行うことが移住意思決定を後押しする。移住体験ゾーンの利用者が交流ゾーンで行われている取組、施設の設えといった「鹿島の魅力」を通して地域住民との自然なコミュニケーション機会の創出を図る。
本ゾーンに求められる場	・お試し移住体験が可能な機能を備えた場 ・交流ゾーンのへのアクセスが容易

鹿島の魅力を体感する入り口であり、まちなかへの出発点

南相馬市 MINAMISOMA

（6）施設計画

③ゾーニング - 移住体験ゾーン

【参考事例】三見駅（山口県萩市）







約100年前に建設された三見駅舎を萩市がJR西日本より譲渡を受け、移住希望者等を対象としたお試し暮らし住宅として改修し、令和５年３月に供用開始。

施設利用者に対して地元の魅力を伝えるガイドも積極的に行い、現地での暮らしのイメージを喚起させている。リピート利用も多く、二拠点・他拠点居住の地としても活用されており、移住につながった実績もある。

■利用対象者
・萩市への移住、地域間交流、二地域居住等を検討している方
・萩市内でサテライトオフィスの開設を検討している方
※観光や旅行等の宿泊目的では利用不可

■利用料金
１組 7,000円 / ６泊７日
以降、１泊追加ごとに1,000円追加

■利用期間
１週間から最長４週間

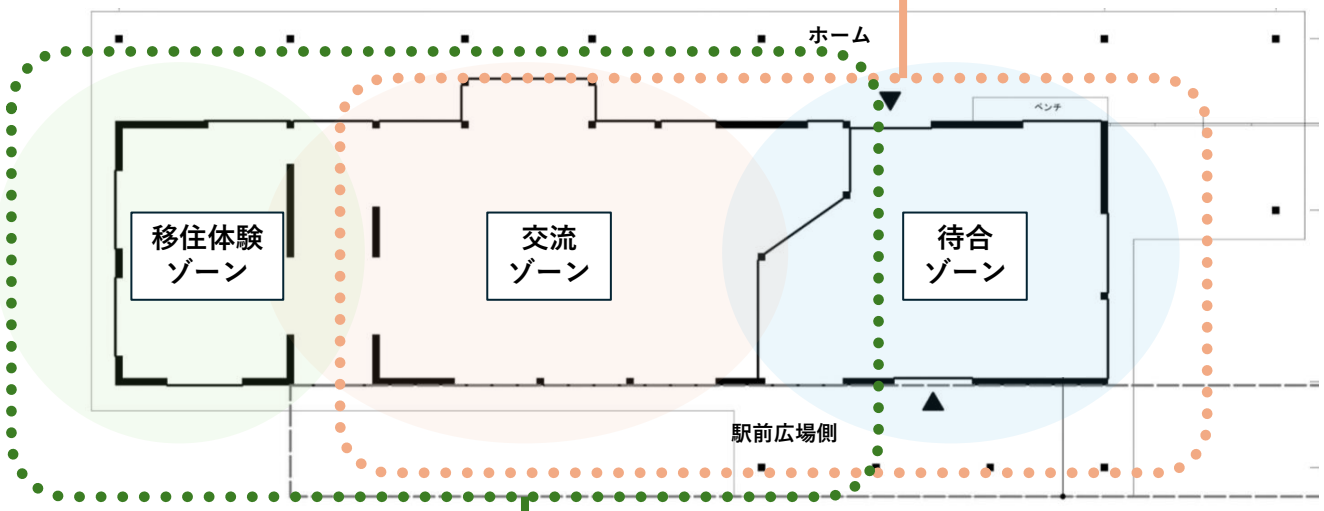
■間取り
１LDK

■施設稼働率
令和5年度は約64％、令和６年度は約77％。

③ゾーニング - 各ゾーンを隣り合わせるねらい

交流ゾーン×待合ゾーン

「高校生を中心とした鉄道利用者が滞留する場」と「市民活動の場」を隣り合わせることで、多世代が日常的に接点を持ち、交流を持つ機会が生まれます。



交流ゾーン×移住体験ゾーン

駅舎のコンセプトである「鹿島の魅力」がコミュニケーションツールとなり、移住検討者は鹿島への関心を高め、地域住民は新たな視点での意見を聞くことで地元の魅力を再認識することにつなげます。

（6）施設計画

③ゾーニング - 施設活用ストーリー（平日版）

多世代の日常が交差する、まちの広間

【朝】
朝の鹿島駅は、ゆったりとした鹿島区のなかで、一日のうち最も活気にあふれる場所かもしれません。駅前広場では送迎車がルールに基づき整然と行き交い、高校生たちがそれぞれの通学先を目指して集まってきます。駅舎の中を覗くと、電車を待つ間、ベンチでスマホを見る生徒、図書コーナーの本に目を通す生徒、友人とおしゃべりに花を咲かせる生徒など、思い思いの時間を過ごしています。なかには、地元のお店が販売する軽食を頬張り、登校前の忙しい時間に、おなかを満たしている姿も見受けられます。電車の到着とともに、数名の生徒がホームへ駆け出していきます。電車が去った後の駅舎の窓際では、藍染の暖簾が風に揺れ、建物内には再び穏やかで落ち着いた空気が流れ始めます。

【日中】
日中は、地域住民の方々が連れ立って訪れ、コーヒーを片手に会話を楽しむ姿や、慣れた手つきで図書コーナーから本を手に取り、読書にふける様子が見られるようになります。電車を待つ人や駅舎を訪れた人々は、壁面に飾られた地元小学生の作品にふと目を留め、足を止めて鑑賞しています。「こどもの日」などを題材にした色彩豊かな作品は、待ち時間の楽しみであるとともに、利用者の心を和ませる存在です。小学生たちは、区内でも多くの人が集まるこの場所で自分たちの作品が披露されることを知り、いつも以上に気合を入れて制作に励んだようです。

【午後】
お昼を過ぎると、駅舎内は一層賑やかさを増していきます。そこでは地域住民による「絵手紙教室」が定期的に開かれており、筆を走らせる方々の楽しげな声が響いています。駅舎という多くの人が行き交うオープンな場で行われているためか、通りかかった人がその活動に惹かれ、それをきっかけに新しい趣味として習い始めることも少なくありません。時には、地域の小学校や支援学校の子どもたちが課外授業の一環として活動に加わり、世代を超えて一緒に筆を握る、温かな光景も見られます。
また、駅舎内では藍染め、絵本づくり、生け花といった多彩なワークショップも日常的に行われ、多くの区民に親しまれています。それぞれの活動は隣り合って開催されることもあり、その縁でコラボレーションした取組も生まれているようです。
このような取組による賑わいの傍らでは、下校途中の小学生たちが宿題を済ませ、本を読んだり遊んだりと、放課後のひとときを過ごしています。しばらくすると、駅前ロータリーにお迎えの保護者たちがやってきます。顔見知りの保護者同士でおしゃべりを楽しんだり、わが子の元へ駆け寄ったりする姿が見られます。なかには、駅舎利用者が鑑賞していた展示コーナーへ保護者を案内し、自分の作品を誇らしげに見せている子の姿もあり、駅舎は微笑ましい親子の交流の場となります。駅舎内には地域のイベント情報が掲示されており、それを見ながら週末の予定を立てる親子の姿もみられます。

【夕方から夜】
夕方、電車から降りてきた高校生たちが駅舎内へ流れてくると、まずは飲み物や軽食を購入して一息つきます。その後、それぞれイヤホンを耳にノートを広げ、自習に励む姿が目立ち始めます。こどもの到着より少し早めに到着した保護者は、夕食として駅舎内で販売されているお惣菜を手に取る姿が見られます。あたりが暗くなる頃、温かな明かりをまとった駅舎の前に送迎車が次々と到着し、高校生たちは一日を終えて駅舎を後にしていきます。

（6）施設計画

③ゾーニング - 施設活用ストーリー（休日版）

鹿島らしさを「つくる」「出会う」場所

【朝】
休日の朝、駅舎は落ち着いた空気に包まれていますが、市民交流スペースでは早くも「野馬追の旗立て準備をやってみよう！」というイベントの準備が始まっています。地元商業観光団体を中心に、駅舎から桜田橋へと続く通りに旗を設置する活動です。駅舎内外で色とりどりの旗が広げられると、鉄道利用者たちが足を止め、「もう野馬追の季節だね」「頑張って」と声をかけていきます。初めて参加した地域住民からは、「こんなに種類があったんだ」「上手くできるかな」といった期待混じりの声が漏れていました。

【午前】
そんな活動の様子を、移住滞在ゾーンから興味深そうに見つめていたのは○さんです。移住フェアをきっかけに南相馬市に興味を持ち、駅舎に宿泊できる珍しさも後押しとなり昨日から滞在しています。「この旗には、どのような意味があるのですか？」○さんの問いかけをきっかけに、作業を手伝いながら会話が生まれます。野馬追が千年以上も地域の人々に大切に守り続けられてきたことを聞いた○さんは、深く感銘を受けて語りました。「私の故郷では、これほど長く続く文化は聞いたことがありません。皆さんがずっと大切に守り続けてこられたのですね。」その言葉は、当たり前だと思っていた地元の文化を見つめ直すきっかけとなり、参加者たちの胸に誇らしい気持ちが芽生えました。

【昼下がり】
旗立てに参加していた☆さんは、長年趣味で生け花を続けてきました。家族や友人に褒められる機会が増え、「いつか自分の作品を外の人にも見てほしい」という願いを抱いていました。ふと駅舎を見渡すと、活動グループやこどもたちの作品が飾られているのが目に入ります。「あのカウンターに、少しの間だけでも自分の作品を飾らせてもらえるかしら……」。賑わう駅舎の様子を見て、ここなら自分の挑戦を優しく受け止めてくれるはずだと感じた☆さんは、施設に常駐しているコミュニケーターの□さんに相談してみようと、一歩を踏み出す決意をしました。

【夕刻前】
作業を終えた○さんは、建物内に飾られている一枚の絵に目を奪われました。オレンジから濃紺へと移り変わる見事な夕焼けのグラデーション。隣り合わせた地域住民の方に尋ねると、「鹿島らしい山並みの夕焼け」をイメージしたものだと教えてくれました。「烏崎海岸の朝日も格別ですよ。野馬追前の今の時期なら、早朝に練馬（れんば）という、砂浜を駆ける馬の練習が見られるかもしれません」。その話を聞いた○さんは、その日の夕刻時を待ち遠しく思い、翌朝は苦手な早起きをして海へ向かおうと決めました。ふと駅舎内を見渡すと、家具や装飾の一つひとつに、地域の歴史や由来を伝える物語が添えられていることに気づきました。「明日はここにある景色をレンタカーで巡ってみよう」と思いを馳せるのでした。

（6）施設計画

④平面計画 - 市民ワークショップの意見

市民ワークショップ（全３回）及び高校生ワークショップ（全１回）で駅舎の利用方法について意見出しを行い、意見を分析することで以下の考え方が必要であることが判明しました。これらの内容を平面計画に反映しています。

・高校生や地域住民が居場所として利用できることが重要であることが伺い知れました。居場所としての利用方法に対しては、談話、休憩、自習、読書等の様々なニーズがあったため、可変式のフレームを使うことで各利用者にとって居心地の良い空間を作れるようにします。

・「外から施設内の様子が見えること」といった施設のハード面での提案や、「イベント等の実施」といったソフト面での提案もワークショップにて多く聞かれました。また、平日は居場所利用が多く、休日はイベント実施がしやすいといった意見から、平日と休日で施設内のレイアウトを変える等、多様な活動に対応した計画とします。

・鉄道利用者の動線を考慮すると、現在、鉄道利用者の待合として利用されているスペースは、改修後も同様の役割が期待され、地域住民の日常的に利用したい機能は交流ゾーン付近に配置する声が集まりました。このため、駅前広場から交流ゾーンに直接来場できることや駅前広場との一体利用を実現するため、出入口を新設します。

施設計画に関する主な意見

■駅舎に集まってもらうために必要なもの

主な意見：・居心地の良い場所（1人でも安心・安全、誰が居るか分かる、地域の人との交流ができる、冷暖房完備、子どもを遊ばせながらお茶ができる等）　・あると良い機能（自習、お茶ができる、Wi-Fi、図書館、送迎の待機場所、買い物）　・イベントの実施（移動販売、マルシェ、ものづくりワークショップ等）

■市街地に駅舎の活動を広げるためには何が必要なもの

主な意見：・まちの起点（観光案内、周辺イベントの起点、レンタサイクル、タクシー）　・情報の掲示・発信（観光マップ、掲示板、鹿島の歴史を学べる、YouTubeなどの情報発信スタジオ等）　・鹿島らしいものの設置（名物・名産品、お土産、飲食店の案内等）

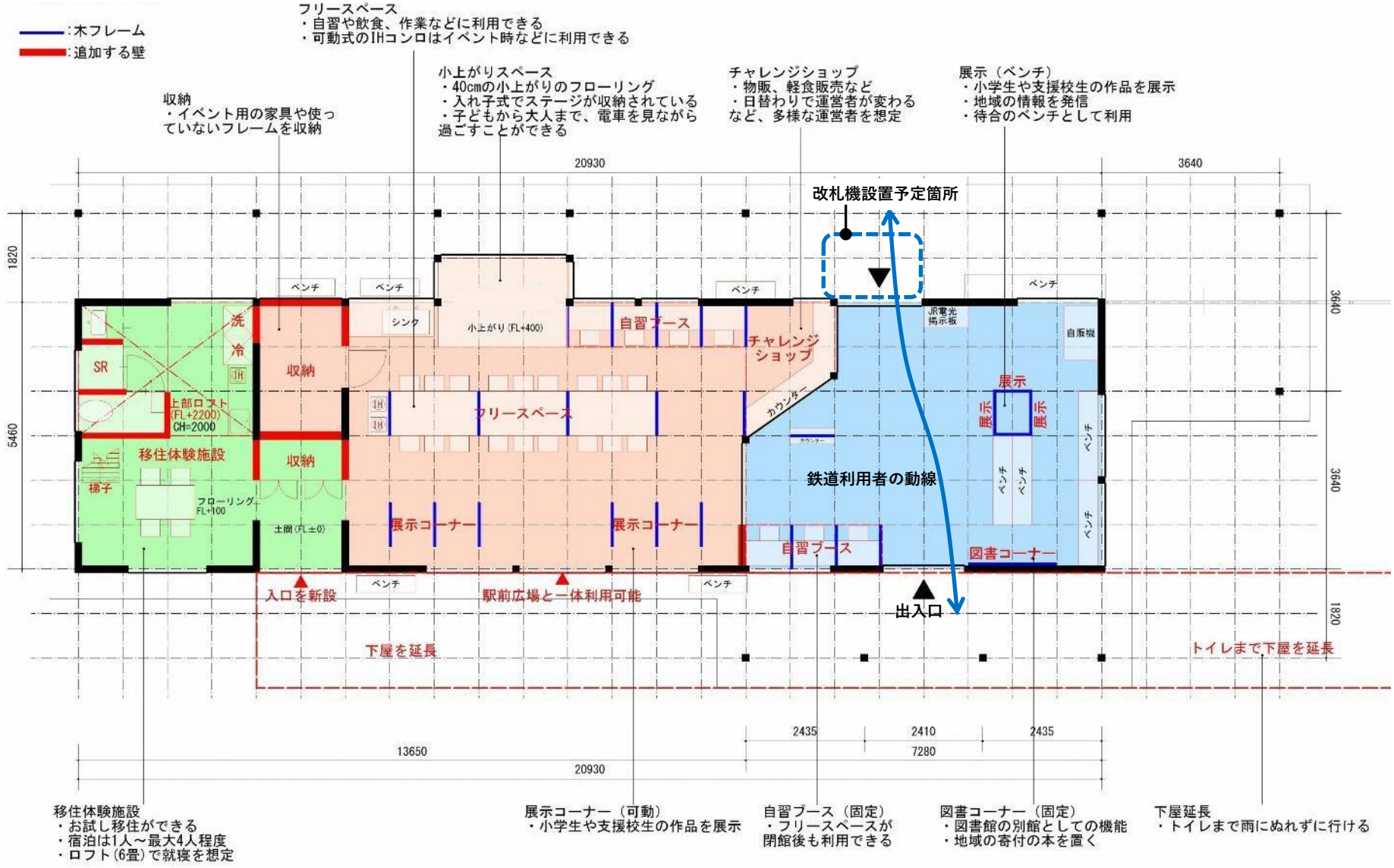
■駅舎の具体的なレイアウトの検討

主な意見：・待合スペースは鉄道利用者の動線でもあるため、地域の情報発信や展示機能を設ける　・駅舎中央部分を中心に、自習・休憩・読書が可能な市民利用の促進が期待される機能を設ける　・駅舎中央部分に新たに出入口を設け、駅前広場からの見通しを良くすることで、建物内の活動の様子が見えるようにする　・軽飲食及び物販機能を設ける　・駅舎の下屋を既存多目的トイレの方までつなぎ、雨天時のトイレ利用に配慮する　等他多数





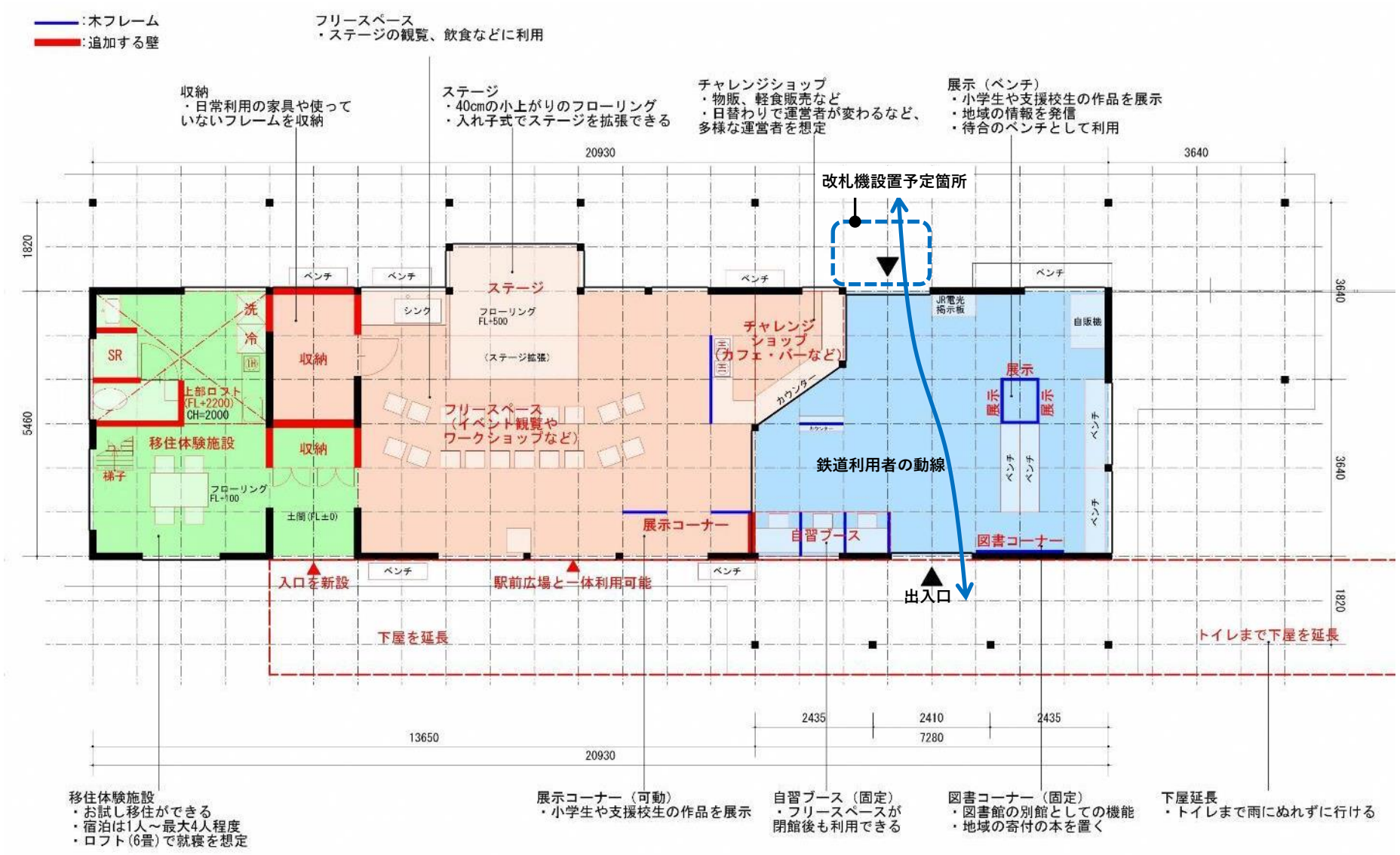
④平面計画 - 通常時



南相馬市 MINAMISOMA

（6）施設計画

④平面計画 - イベント時



南相馬市 MINAMISOMA

（6）施設計画

④平面計画 - 木フレームの活用

多様な利用者のニーズにあわせた自由な使い方を実現するための手法として、木フレームを活用します。
木フレームは地域産材を活用し、住民が染めた布などの素材を利用して彩ります。可変性・可動式であり、温かみのある雰囲気で空間を緩やかに仕切り、利用者に居心地の良い居場所をつくりだします。木フレームを組み合わせることで、様々な居場所をつくることが可能です。また、将来的にベンチやテーブルなどとして、鹿島区市街地に展開していくことも考えられます。
木フレームの特徴として下記を上げることができます。

① 地域の方々が参加し、鹿島の資源を生かした、鹿島ならではの施設づくりができます
木フレームをつくることに地域住民が参加し、住民が地域の資源を持ち寄ってつくることができます。実験的に、フレームをつくり、使ってみるイベントなども行っていきます。

② 使い方にあわせて、レイアウト変更などを行い、多様な場所づくりができます
木フレームは可動の家具です。使い方にあわせてフレームを組み合わせて、活動の場所をつくります。イベント時など、駅舎の外に持ち出すことも可能です。

③ まちなかに開き、施設からまちなかへと活動がつながる仕掛けとなります
同様のシステムで、ベンチやテーブル、花壇、案内サインなどとして、公共空間、空地や空き店舗へ展開していくことが可能です。まちなかの小さな居場所となり、人々の活動、出会い、交流が生まれる場となります。

④ 鹿島に関わるあらゆる人々が参加して空間を彩ることができます
鹿島に関わる多様な人々が材料を持ち寄り、空間づくりに参加することで、鹿島ならではの場所をつくります。
また、地域住民が施設づくりのプロセスにも参加することにより、自分たちの施設という意識を醸成します。






（7）施設の活用

鹿島区の魅力である「人々の活動」を鹿島駅舎で行い、訪れた人の目に触れることをきっかけに活動の広がりに繋げていきます。交流ゾーンを中心に地域住民の活動の発表やイベントのみならず、発表に至るまでの過程である日常的な作業や練習なども施設内で行うことにより、交流のきっかけとします。

鹿島区を中心に活動している個人・団体へのヒアリング等を実施し、現在行われている取組のなかから、新たな駅舎での活動として想定されるものを示します。

【取組年間スケジュール案】



※現時点での案であり、今後変更の可能性があります。

■施設内での取組案

相馬支援学校





作品展示



チャレンジショップ



校外学習での利用

鹿島区で学ぶ相馬支援学校の児童生徒達が学校生活や日頃の取組を通じて作り上げた絵画や工作、新聞などを展示します。子どもたち一人ひとりが持つ独自の視点は、私たちに新しい風景を見せてくれるとともに、その視点から広がる鮮やかな世界を、広く地域住民の方が触れる場としての活用を目指します。

また 地域で活動するアーティストやものづくりを行う方々と協力し、共作展示や特別企画の実施も行い、世代や立場を超えた感性の交流を育みます。駅舎の改修時には工事の仮囲いや建物の壁・床の一部をキャンバスとして用いたペイントワークショップを行う等、鹿島をかたちづくる方々とともに場づくりを行います。

[取組実施イメージ]
展示：授業や課外活動で制作した作品を2～３か月に１回入れ替えながら行う等
チャレンジショップ：技能実習で習得したサービス技術を披露する場として、年に1回程度、チャレンジショップでのカフェ出店など
校外学習利用：授業にて習得した手わざを地域の方に教える、また地域の方から手わざを習うことも考えられます

※現時点での案であり、今後変更の可能性があります。

（7）施設の活用

■施設内での取組案

相馬野馬追



相馬野馬追の旗指物



街頭旗の設置

相馬野馬追はかつて草原で騎馬武者が野馬を追う行事でした。このため、騎馬武者たちを遠くからでも見分けられるように、それぞれの武者が旗を掲げていました。この旗は、騎馬武者の名札のような役割を果たし、家族ごとに異なる意匠をもつもので、旗の柄によってどの家の武者であるかが一目で分かる仕組みとなっていました。その数は2000種以上もあるといわれ、先代から受け継がれてきた旗はそれぞれの騎馬武者達の家族の歴史とともに今に至ります。

また、旗の意匠を用いた街頭旗は相馬野馬追の時期にまちなかを彩り、祭事の季節を知らせる風物詩となっています。今回、鹿島のまちの表舞台を支える取組と地域住民との接点をつくることで、これまで知ることが無かった祭事の一面を見つめ直すきっかけづくりを目指します。

[取組実施イメージ]

展示：駅舎の外観を彩る旗は2か月ごとに入れ替え、駅舎を訪れた人に鹿島のまちから相馬野馬追に出場する騎馬武者それぞれが持つストーリーを届けます。

街頭旗設置：鹿島駅を含めて市街地を彩る街頭旗の設置作業を一般公募で参加者を募り行います。

※現時点での案であり、今後変更の可能性があります。

（7）施設の活用

■施設内での取組案

味噌作り教室



鹿島の気候を生かし、こだわりの麹菌を用い、味噌づくりを通して地域の食文化を支えてきた若松味噌醤油店の若松真哉さんを講師として、味噌づくりワークショップを行います。

日頃何気なく口にしている味噌に目を向け、また店主が日頃込めている味噌への思いを知ることで、地元の手しごとを見つめ直します。

ミニライブ・ライブ配信開催



鹿島区内でスタジオを構える狩野菜穂さんを講師に迎え、月に1回程度、駅舎内でミニライブを行います。

老若男女問わずスタジオで日々研鑽している歌やダンスの成果の発表、ピアノセッション等を行います。大晦日には生配信を通してその年の活動を振り返る企画を行い、活動発信の場としての活用を目指します。

高校生向けキャリアワークショップ



若松味噌醤油店の若松真哉さんを中心に、地域の各分野で活躍するプレイヤーを招き、「なぜ自分がここにいるのか」という熱い思いを起点として、地元高校生に自身のキャリアの「これまで」と「ここから」を語ってもらいます。普段接点が生まれにくい両者ですが、高校生が将来を思い描くことや、世界を広げるきっかけを“地元を通して知る”場づくりを行います。

※現時点での案であり、今後変更の可能性があります。

■施設内での取組案

絵本づくりワークショップ



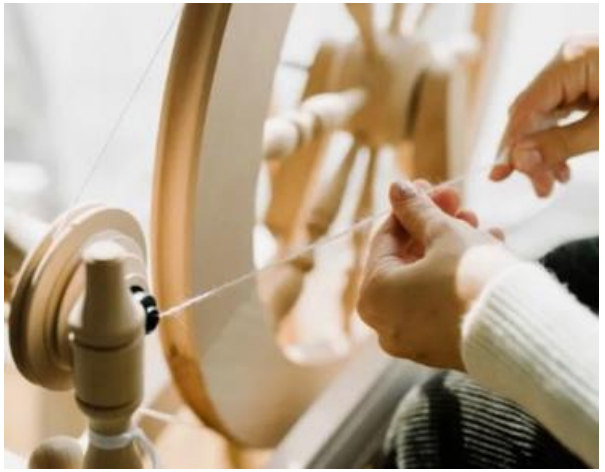
地元で活躍しているアーティストの小原風子さんを講師に迎え、自分だけの物語を形にする「絵本づくり教室」を開催します。
鹿島の豊かな自然や日々の何気ない暮らしのなかにある「宝物」を見つめ直し、自然の素材や自分だけの言葉を組み合わせて一冊の本に仕立てていきます。自分の内側にある世界を表現する楽しさを体験できます。

藍染めワークショップ



原発事故の影響により、食用作物の生産が難しくなった鹿島区内のとある畑で栽培が始まった藍の葉。そこから鹿島の藍染め文化が生まれ、現在では市内各地で子どもから大人まで親しむ機会があります。鹿島区内で育った藍の葉を用いて藍染め作品を制作している林万妃江さんを講師として藍染体験を行い、震災を背景として生まれた文化をつないでいきます。

糸紡ぎワークショップ



鹿島区内で綿を育て、糸を紡ぎ、作品制作も行っている林万妃江さんを講師に迎え、普段目にすることのない「糸を紡ぐ」という手仕事を体験します。紡いだ糸を藍染めワークショップで染色してしてみるなど、次の工程につなげることで、鹿島区内で育まれている多様な文化を肌で体感する機会を創出します。

※現時点での案であり、今後変更の可能性があります。

■施設内での取組案

わらじづくり教室



かつては日常的な履き物として広く親しまれたわらじ。鹿島区には、千年以上続く相馬野馬追の伝統を足元から支える、熟練の手しごとが今も息づいています。この教室では、騎馬武者が着用するわらじを長年作り続けている地元の方を講師に迎え、地域の文化と紐づいた伝統的な技術の発信と継承を目指します。

DIYワークショップ



改修後の駅舎で使用する小型家具や内装の一部を、テクノアカデミー浜の教員や生徒を講師に迎え、地域住民参加型のワークショップで制作します。自分たちの手でベンチや備品を作り上げる体験を通じて、地域住民と駅舎とのつながりを生み出します。また、定期的に内装や備品のお手入れ作業を行う機会を設け、住民の手で駅舎を大切に維持するとともに思い入れのある駅舎へと育てていきます。

「鹿島の味」を知る教室



鹿島区で育まれてきた食文化を代々受け継ぎ守り続けている地元の方々を講師に迎え、「鹿島の味」をつくり、味わいます。食文化を通じて地域に根ざした暮らしの豊かさを再発見し、次の世代へと受け継がれていく場を目指します。また、この活動で生まれる「香り」や「音」が、駅舎利用者の地域の再認識や相互の交流を生むきっかけとします。

※現時点での案であり、今後変更の可能性があります。

（7）施設の活用

■施設内での取組案

絵てがみ教室



地域で絵手紙教室を主宰している只野由起子さんを講師に迎え、身近な題材を通して季節の挨拶や日々の想いを綴る「絵手紙教室」を開催します。時には地元の子ども達が課外授業の一環で活動に参加し、絵手紙教室の受講者が描き方を伝えることで、世代や立場を超えた感性の交流を育みます。

まち歩きツアー



既に活動している地域住民がガイドとなり「まち歩きツアー」を開催します。地域で暮らす人々の営みや活動を参加者に直接届ける「地域の案内役」としての役割を担います。駅舎内に掲示された相馬野馬追の物語や、地元の子どもたちが描いた作品など鹿島の魅力を出発点とすることで、駅舎内で得た情報を基に実際の風景や人との出会いへと繋げていきます。

フラワーアレンジメントワークショップ



地域でフラワーアレンジメント教室を主宰している海老原由香さんを講師に迎え、植物を通して季節の移ろいを感じながら、暮らしを彩るフラワーアレンジメントのワークショップを開催します。ワークショップで制作された四季折々の作品を施設内に展示することで、駅舎を訪れる人々に鹿島の温かな営みと、この地ならではの豊かな四季の風景を伝えていきます。

※現時点での案であり、今後変更の可能性があります。

南相馬市 MINAMISOMA

（8）駅舎周辺の考え方

駅前広場・駐車場

駅舎の改修に合わせて、駅前広場や駐車場等も一体的に整備します。駅前広場は、歩行者・自動車の動線を整理し、送迎等の際に安全で使いやすい駅前広場とします。鉄道や施設利用者の駐車場など、駅舎周辺の敷地も含めて必要な機能を確保します。既存トイレは駅舎から庇を連続させるなど、駅舎利用者が利用しやすい動線を確保します。

歩行者、自動車の動線の整理

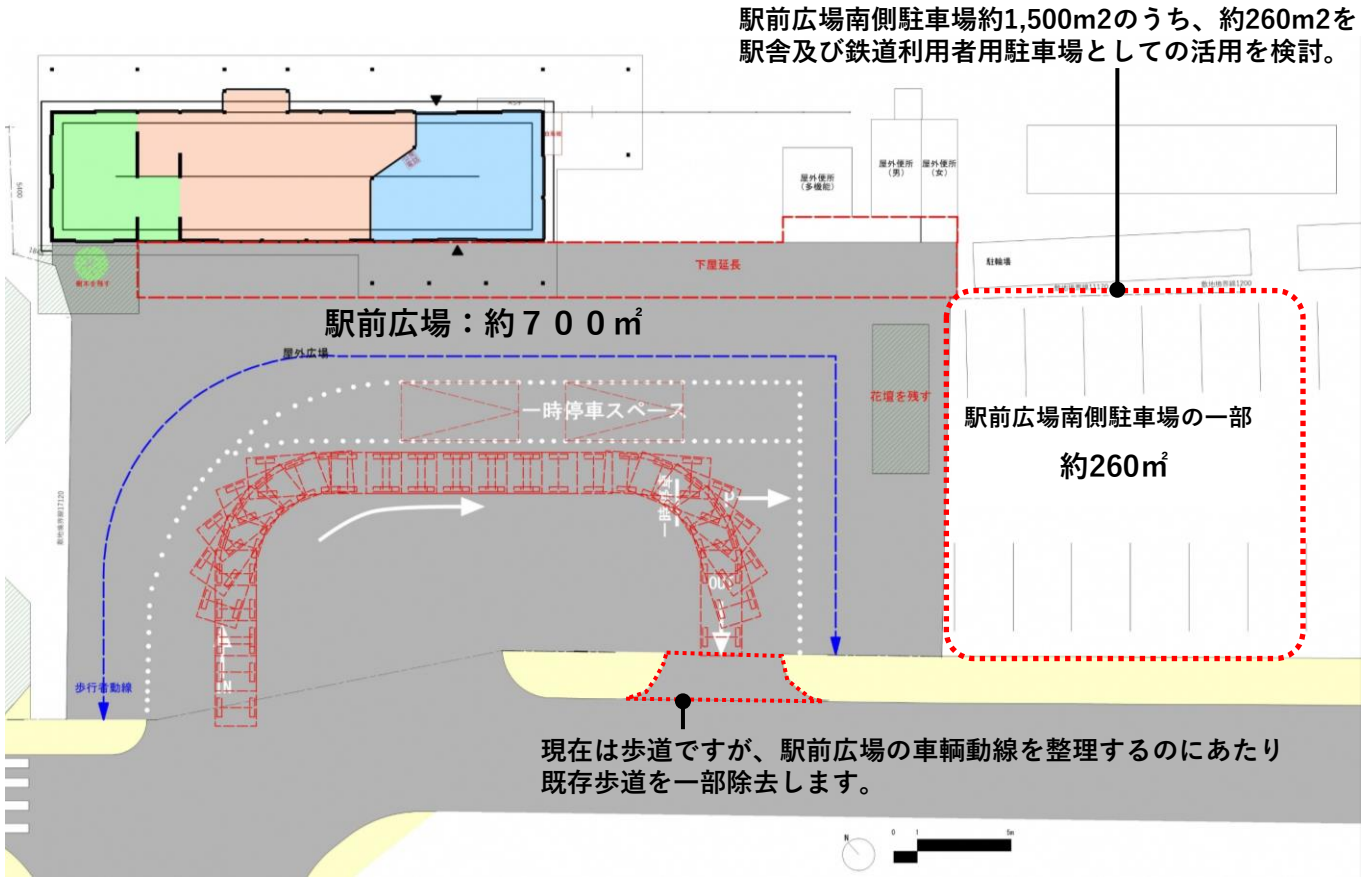
送迎などの自動車の動線を整理し、駐停車のルールを明確にします。また、歩行者の動線も明確にすることで、安全に使える駅前広場とします。

駐車場の確保

駅前広場の利用方法を整理するのに加えて、駅前広場南側の既存駐車場の一部区画を駅舎利用者及び鉄道利用者用の駐車場として活用することを管理者であるかしま観光協会と協議を行っています。現在は駐車場内で空き区画が点在しています。そこで、これらの区画を整理し、駅舎に近い箇所に集約し活用することを目指しています。現時点では、駅舎利用者及び鉄道利用者用の駐車場を11台程度確保する想定をしています。
※台数算定根拠：鹿島駅の1日あたりの利用者数は原ノ町駅と比較すると約26％です。駅の利用者数と駐車場必要規模は比例すると仮定し、原ノ町駅前の駐車場区画数が45台に対して26％を乗じて設定。

建物内と一体的な利用

駅舎前面には、駅舎と一体的に活用できる活動スペースを確保します。また、イベント等でも活用できるようまとまった平場を確保できるような設えとします。なお、イベント実施時の駐車場などは周辺敷地を含めて確保します。



（9）まちへの展開

①市街地

駅舎を拠点に、駅前広場や駅前通り等と一体的、連携して活動を行い、まちなかへ広げます。

鹿島区市街地へ広がる人の流れをつくる

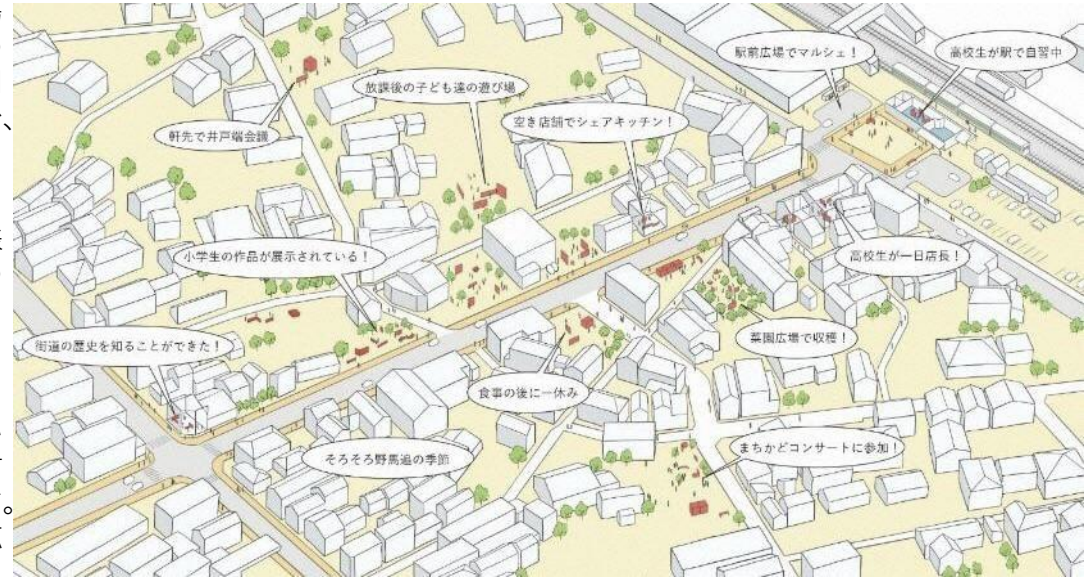
地域の魅力、地域の中で行われている活動を施設に集め、鹿島の魅力として発信することで、興味・関心を持った施設利用者のまちなかへの回遊を促します。また、駅前広場などの屋外を利用して、鹿島区市街地との連携したイベント等の取組を行うことで、回遊をつくります。

まちのにぎわいの担い手となる人・活動を育てる

若い世代等の地域への愛着を育み、地域へ定着し、また、多様な活動への参加を促します。また、地域のプレイヤーは、成果の発信や交流を通して、活動の幅を広げます。一緒になって地域を支える活動へと継続、発展していきます。

まちなかの空家・空き店舗などへの展開

鹿島区市街地には、多くの空家や空店舗、空き地が点在しています。駅舎をチャレンジする場として、また多様な住民等へ発信する場とすることで、住民等の起業や活動づくりを後押しします。また、お試し滞在を通して、移住者を受け入れます。施設から拡張し、まちなかの空きスペースでの活動へと育てていきます。



②SAとの連携

セデッテかしまとの連携により、鹿島の魅力を発信し、来訪者を受け入れ、地域内外の交流を促進します。

鹿島区市街地へ広がる人の流れをつくる

鹿島の魅力を体感できる場として鹿島駅舎を整備することにより、南相馬鹿島サービスエリア来訪者がまちなかを目指す地域資源のひとつとします。この特徴をもつ鹿島駅舎を訪れることで地域の魅力に触れ、関心を深め、鹿島とのつながりを持つ人を増やすことで、移住促進につなげていきます。

まちのにぎわいの担い手となる人・活動を育てる

南相馬鹿島サービスエリアは年間150万人を超える来訪者があります。この大きな市場は移住者等の起業の可能性を広げ、事業の安定・拡大への足掛かりにつなげることができます。また、サービスエリアにて来訪者がその商品やサービスに触れることで、まちなかに降りるきっかけになる、というサイクルを生むことにもつながります。こういったきっかけで鹿島との関係性を深め、移住を検討した人が生活基盤の整った鹿島区市街地に立地する駅舎での滞在によって鹿島で暮らすイメージを喚起させることで、効果的な移住促進を図ることが可能です。

（10）運営体制

現在の待合スペースは、駅員や特定の管理人がいない状況となっています。一方で、新施設は、待合機能に加えて市民利用のための機能を整備することにより、管理・運営が必要となります。

地域の交流の拠点とすることから、地域住民にとって身近で、気軽に利用できる管理・運営手法とします。貸しスペース利用やイベント利用など、住民の多様なニーズを受け入れる施設とします。

①運営の基本方針

常に誰かがいる施設とします

いつ施設を訪れても、利用者を迎え、施設での活動を見守る人が滞在している施設とします。特別な用事がなくても、気軽に訪れ、様々な交流が生まれ、地域の子どもや中高校生なども安心して滞在できる施設とします。

鹿島区民が活動を持ち寄る施設とします

住民等に対して利用を呼びかけます。また、利用者のニーズに合わせて、柔軟な運営をすることで、活発で多様な利用が行われる施設とします。住民団体等による活動、イベント実施など、利用手続きも簡素化し、鹿島区市街地における住民の活動拠点として、活発に利用される施設とします。

鹿島区市街地等と連携した運営とします

市街地の活動と連携します。学校や活動団体などの発表の場とするなど、市街地の活動を鹿島区市街地の魅力として発信し、また、地域住民の暮らしを支える情報を発信する施設とします。

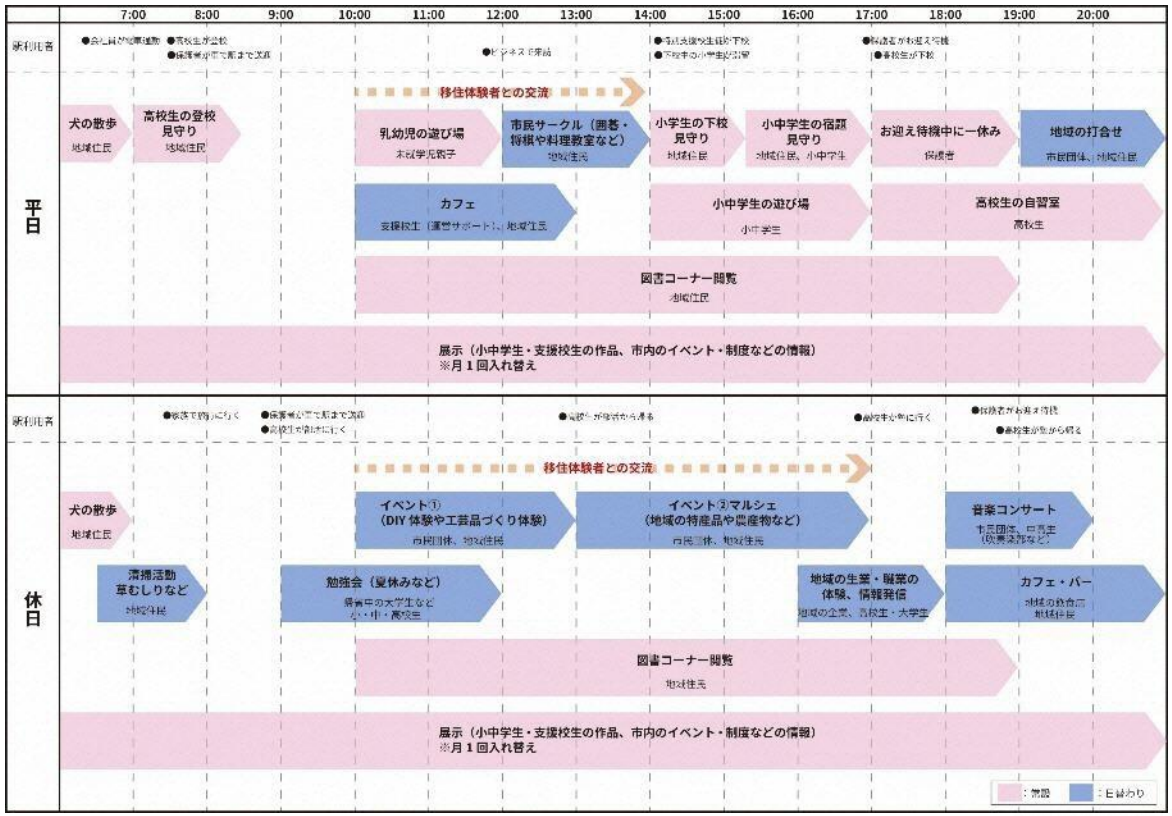
また、地域の様々な方が管理・運営に携わり、既存の花壇の管理、清掃などのボランティアに加えて、多様な関わりをつくります。

②利用のイメージ

地域の住民、団体、事業者等が、それぞれがプログラムを持ち寄り、継続してにぎわいをつくる活動が活発に行われる施設を目指します。

市民ワークショップでは、時間帯に合わせた様々なプログラムのアイディアが出されました。引き続き、活動団体等にヒアリングを行いながら、プログラムを具体化し、施設利用のイメージを共有します。

個人や団体が無理なく関わり、自らの活動を行い、活動を広げていきます。



（10）運営体制

③ 運営手法の検討

改修後の駅舎は地域に身近で使いやすい施設とし、かつ、地域団体や民間事業者のノウハウを生かすことで、運営プログラムを充実し、収益性を含めて柔軟な運営を目指します。

一般的には、直営、業務委託、指定管理者の手法が考えられ、それぞれの手法を比較しながら、市、関係者、地域住民で検討していきます。地域の多様なプレイヤーの参画を募り、地域に寄り添った運営を行うには、地域おこし協力隊制度の活用や指定管理者制度など、意欲的な管理・運営主体が望まれます。

本計画では、以下の２つの方向性を示します。令和８年度以降、関係者等との協議等を行いながら、事業手法を決定します。

運営手法案１　地域おこし協力隊制度の活用（直営）

施設の管理・運営の担い手として地域おこし協力隊を募集します。地域おこし協力隊を中心として、駅舎を運営しながら指定管理者としての受け皿団体の育成を進め、3年後の移行を目指していきます。

運営手法案２　指定管理者制度の活用

地域団体等が主体となり、指定管理者として管理・運営を行います。今後、鹿島商工会等の地元関係者との協議を行いながら、地域の受け皿を検討します。なお、指定管理者制度を活用する場合も、担い手と十分な協議等を行い、施設の目的や運営方針を共有し、管理・運営に反映させます。

手法	概要	特徴
直営	市自らが主体となって管理・運営を行う。	●行政の意向を反映した運営をしやすい ●公益性の高い事業を実施しやすい ▲人件費等が割高 ▲民間のノウハウを活用しづらく、定型的な運営になりやすい ●継続性があり、安定的な施設運営が可能
	地域おこし協力隊を募集し、施設の管理・運営を行う。	●行政の意向を反映しつつ、地域おこし協力隊の発想や行動力を活かした運営が期待できる ●地域おこし協力隊の制度を活用できる（活動費など） ●行政内の体制整備が不要で、かつ運営者が、地域の新たな担い手となる ▲本事業の主旨に合致した地域おこし協力隊の募集、採用が必要である ▲地域おこし協力隊の任期終了後の継続が課題
業務委託	管理・運営業務の一部を民間事業者等に委託する。事業主体も市のまま。契約は単年であることが一般的。	●行政の意向を反映した運営をしやすい ●事業費の効率化を図ることができる ●行政内の人員体制整備が不要 ●コスト削減が可能 ▲委託内容が限定されると、民間事業者の主体性が発揮しづらい ●継続性があり、安定的な施設運営が可能
指定管理者制度	管理権限を、指定を受けた民間事業者等に委任する。管理者として、利用者からの料金を徴収し、収入にできる。契約は複数年となることが多い。	●民間の発想で柔軟かつ弾力的な運用が可能 ●事業費の効率化を図ることができる ●行政内の人員体制整備が不要 ●コスト削減が可能 ●事業者が収益を確保できる（自主事業による事業拡大等も可能） ▲長期的展望にたった継続性・安定経営が課題

（11）事業計画

①建設費

類似施設の実績をもとに、概算事業費を算出します。

項目	金額（千円）	備考
調査・設計監理費	29,000	
工事費	146,000	周辺部外構込み
備品購入費	5,500	
合　計	180,500	

※工事費は既存躯体調査の結果や今後の物価上昇の影響により変動の可能性あり。
※財源として、第二世代交付金（内閣府）補助率1/2以内を想定している。

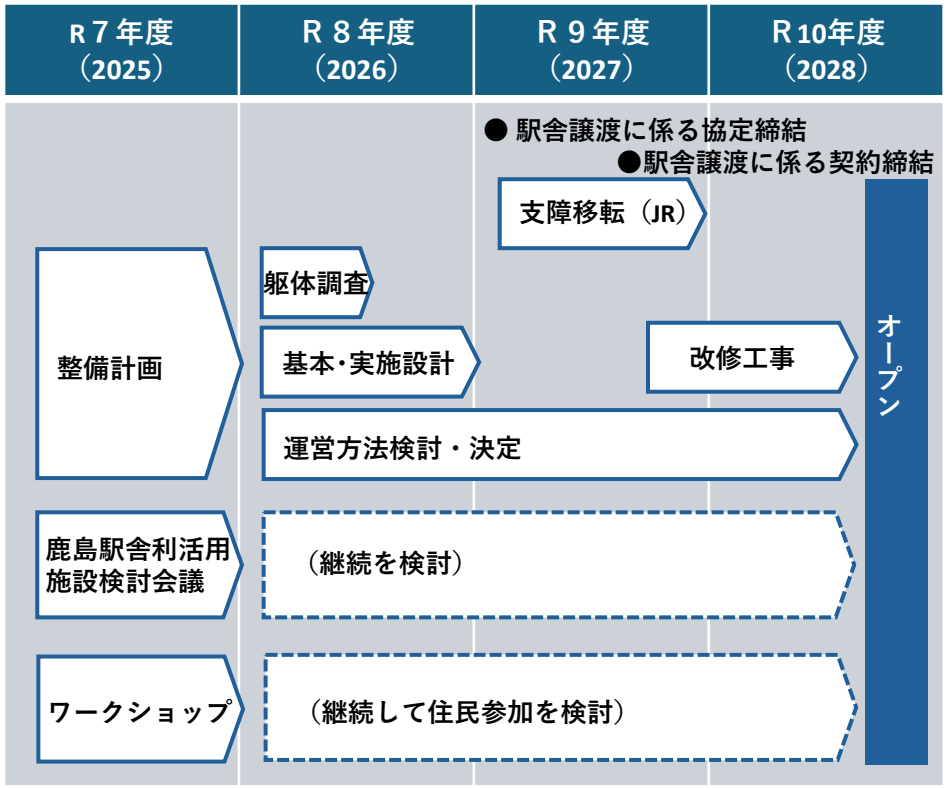
②維持管理費

一年間の維持費を、類似施設の実績から算出します。

項目	金額（千円）
光熱水費（上下水道料金、電気料金など）	1,450
役務費（清掃作業費、インターネット使用料など）	340
施設管理費（消防用設備点検費、警備保障など）	220
移住体験ゾーン管理費（光熱水費、クリーニング費など）	594
人件費（地域おこし協力隊）	5,618
合　計	8,222

③事業スケジュール

施設は、令和10年度（2028）の供用開始を目標とします。令和8年度は、既存躯体の調査を行い、現況を確認したうえで基本・実施設計を行います。令和9年度には、工事を行います。工事の進捗に合わせて運営者選定を行い、令和10年度中の供用開始を目指します。
令和7年度に実施した、住民により組織する鹿島駅舎利活用施設検討会議やワークショップ、実験的活用イベントを継続し、地域の多様な主体の参加により施設づくりを行い、供用後の利用を活性化します。段階ごとに住民参加の機会をつくることで。施設を支える地域の体制づくりを行っていきます。



※表中の支障移転は、今般の駅舎譲渡と改修にあたり必要とされるSuica改札機をはじめとしたJR東日本が所有する資産の移転作業を行うもの。

（12）関係者との検討経過

■鹿島駅駅舎利活用施設検討会議

鹿島駅駅舎利活用施設整備計画策定にあたり、市民と共に駅舎の利活用方法を検討し、その内容をまとめていく過程において考え方や方向性を協議する会議体として設置

区分	氏名	所属
委員長	涌井 秀之	南相馬市鹿島区役所
委員	小野 美花	福島県立相馬支援学校
委員	草野 繁春	鹿島商工会
委員	大河内 俊樹	鹿島商工会 青年部
委員	鈴木 秀明	かしま観光協会
委員	管野 忠明	三区行政区
委員	草野 禎夫	行政区長会
委員	太田 光則	鹿島小学校PTA
委員	堀内 悠司	鹿島小学校PTA
委員	鎌田 博信	鹿島中学校PTA
委員	五賀 朋子	鹿島中学校PTA

【第１回（令和7年5月29日）】

協議事項：

・事業概要、検討会議設置の目的の説明

・座談会（①鹿島駅駅舎に“あったらいいな”と思うのは、どういったことが出来る場所か？　②“あったらいいな”を実現するために必要だと 思われる「もの」「仕組み」はどのようなものか？）

主な意見：

①“集う場所”“安心して過ごせる場所”“特色がある場所”“利用者によって様々な使い方が出来る場所（例：宿題が出来る、本を読める、誰かと一緒に作業や活動が出来る）”等

②目的に合った施設や設備の整備、運営を担う人材やシステムづくり、（つづき）鉄道関係者との協力体制づくり等

【第２回（令和7年9月3日）】

協議事項：

・ワークショップ等、市民意見聴取内容の報告

・座談会（駅舎改修後の施設利用者層及び駅前広場の活用について）

主な意見：

[市民意見聴取内容]　・大人のみならず、実際に駅舎を利用している高校生からも自習スペースが欲しいという意見が出たようで、学校と自宅以外に区内に勉強が出来る場所の必要性を確認した。　・鹿島図書館の立地は高齢者にとって不便だと思っていたが、高校生も不便に感じていることが分かった。

[改修後の施設利用者層]　・通学で毎日利用する高校生、鹿島に通学してくる相馬支援学校の生徒が安心して過ごしやすい駅が必要　・駅舎から徒歩圏内の住民のみならず、広く市民が利用しやすい場所に出来ると良いのでは

[駅前広場・駅周辺の活用]　・歩行者と車輌の動線を明確に。　・駅舎利用者の安全性の確保。　・改修後にこれまでよりも多くの人が訪れる施設にするには、駐車場が必要。駅周辺の空き地の活用も視野に入れてはどうか。

【第３回（令和7年12月22日）】

協議事項：

・計画素案の説明、意見交換

主な意見：

・施設運営においては利用がしやすいシステムを導入してほしい（例：手続きの簡略化、セキュリティサービス導入による施設利用時間の延長等）　・市民の施設利用促進にあたっては、そこで過ごしたくなる設えがあるとよいのではないか。　・施設管理者が変わることによって、当初掲げていた施設のあり方が失われないように。　・駅前広場は有効活用していきたい

（13）今後の検討課題

駐車場の確保
・駅舎周辺の駐車場候補地の関係者との詰めの協議

施設利用者との対話
・供用開始後に施設を利活用する団体や個人との対話

運営者組織の組成
・将来的な運営組織の組成を見据えた、地元関連団体を中心としたネットワーク組成

駅前広場の混雑緩和に向けた駅東口整備の検討
本計画の策定にあたって開催した検討会議やワークショップにおいて、駅東口の整備を求める声が寄せられましたが、整備にあたっては、以下に掲げる事項の調整が求められるものと想定されます。
・東口改札の設置に係る費用負担者の取り決め（自治体が費用負担する可能性大）
・整備対象範囲の設定及び用地取得
・整備対象地に接続するための国道６号線の改修整備